

IV 教科に関する調査結果及び分析

1 小学校国語

概 要

国語について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で上回っている。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で下回っている。

■令和7年度の香川県と全国の調査結果

小学校国語	児童数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,441	149	9.4 / 14	67
全国 (公立)	936,137	18,265	9.4 / 14	67 (66.8)

■令和3～7年度の香川県と全国の調査結果

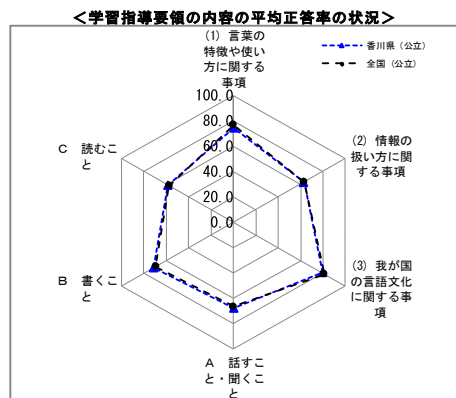
小学校国語					
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	63	67	67	67	67
全国 (公立) 平均正答率 (%)	65 (64.7)	66 (65.6)	67 (67.2)	68 (67.7)	67 (66.8)
香川と全国との差 (pt)	▲2	1	0	▲1	0

■令和３～７年度の内容別調査結果

小学校国語							
学習指導要領の内容		思考力、判断力、表現力等			知識及び技能		
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文 化に関する事項
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	67.3	71.0	58.5	74.2	63.0	79.3
	全国（公立） 平均正答率（％）	66.3	69.5	57.5	76.9	63.1	81.2
	香川と全国との差 （pt）	1.0	1.5	1.0	▲2.7	▲0.1	▲1.9
令和六年度	香川（公立） 平均正答率（％）	59.6	68.6	72.5	60.7	86.7	77.2
	全国（公立） 平均正答率（％）	59.8	68.4	70.7	64.4	86.9	74.6
	香川と全国との差 （pt）	▲0.2	0.2	1.8	▲3.7	▲0.2	2.6
令和五年度	香川（公立） 平均正答率（％）	74.0	29.9	71.4	69.3	65.9	
	全国（公立） 平均正答率（％）	72.6	26.7	71.2	71.2	63.4	
	香川と全国との差 （pt）	1.4	3.2	0.2	▲1.9	2.5	
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	69.6	48.7	66.1	69.8		82.3
	全国（公立） 平均正答率（％）	66.2	48.5	66.6	69.0		77.9
	香川と全国との差 （pt）	3.4	0.2	▲0.5	0.8		4.4
令和三年度	香川（公立） 平均正答率（％）	77.0	56.9	44.5	67.9		
	全国（公立） 平均正答率（％）	77.8	60.7	47.2	68.3		
	香川と全国との差 （pt）	▲0.8	▲3.8	▲2.7	▲0.4		

■ 問題別調査結果【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				香川県(公立)	全国(公立)
全体			14	67	66.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	74.2	76.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	63.0	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	79.3	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	67.3	66.3
		B 書くこと	3	71.0	69.5
		C 読むこと	4	58.5	57.5
				4	72.7
評価の観点	知識・技能	4	72.7	74.5	
	思考・判断・表現	10	64.9	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	64.7	64.7	
	短答式	3	76.5	78.5	
	記述式	2	63.9	58.8	



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、 表現力等			知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習 に取り組む 態度	選択 式	短答 式	記述 式	香 川 県 (公 立)	全 国 (公 立)	香 川 県 (公 立)	全 国 (公 立)
			(1) 言葉 の特徴 や使い 方に 関する 事項	(2) 情報 の扱い に 関する 事項	(3) 我が 国の 言語 文化 に 関する 事項	A 話す こと・ 聞く こと	B 書く こと	C 読む こと										
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6 ア				○		○			57.3	53.3	0.4	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6 イ						○		○			63.0	63.1	0.4	0.5
1三 (1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Aのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる				5・6 エ				○		○			74.2	71.8	0.5	0.6
1三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6 エ				○		○			70.4	73.7	0.5	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる					3・4 イ			○		○			64.3	65.5	0.8	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 エ			○		○			81.3	81.8	0.8	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 ウ			○			○		67.3	61.3	3.1	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す(二のみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ							○		○			81.0	81.6	4.8	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す(あついで)		5・6 エ							○		○			67.5	72.1	3.5	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる			5・6 ウ					○		○			79.3	81.2	1.0	1.3
3二 (1)	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる						1・2 ア		○		○			81.1	81.6	1.9	2.9
3二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる					5・6 ア			○		○			51.2	51.3	1.6	2.4
3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる					5・6 ウ			○		○			41.2	40.8	2.2	3.4
3三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる					5・6 ウ			○		○			60.6	56.3	10.1	16.2

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【小学校国語】（全 14 問中 3 問）

問題 番号	問題の概要	内容	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
1 一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	話聞	思判表	選択	57.3	0.4	4.0
2 三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	書く	思判表	記述	67.3	3.1	6.0
3 三 (2)	【資料 1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料 2】【資料 3】【資料 4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	読む	思判表	記述	60.6	10.1	4.3

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【小学校国語】（全 14 問中 2 問）

問題 番号	問題の概要	内容	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
1 三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話聞	思判表	選択	70.4	0.5	▲3.3
2 四 イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あつい日）	言葉	知技	短答	67.5	3.5	▲4.6

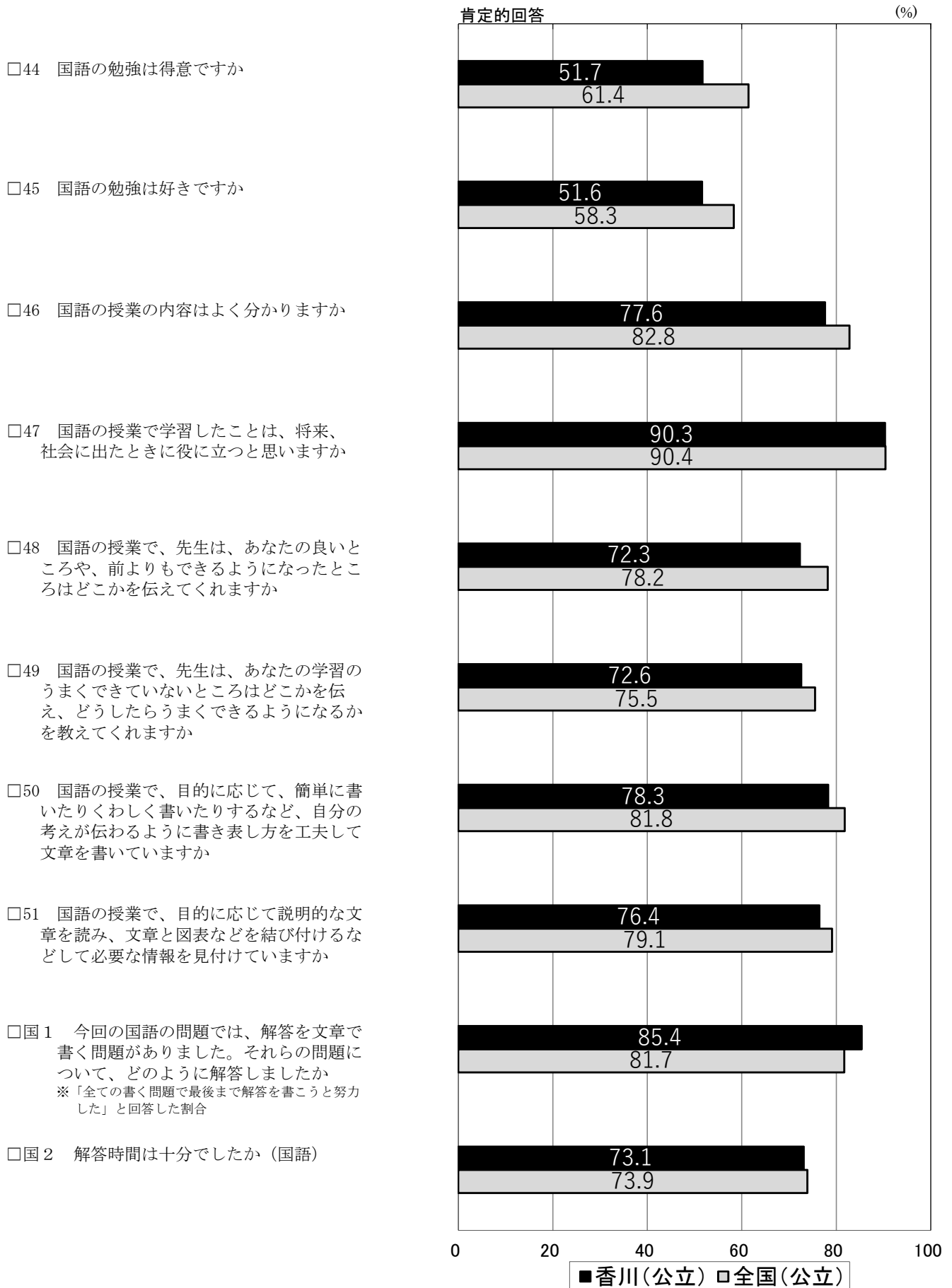
■正答率が低い問題（50%未満）

【小学校国語】（全 14 問中 1 問）

問題 番号	問題の概要	内容	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
3 三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄 A に当てはまる内容として適切なものを選択する	読む	思判表	選択	41.2	2.2	0.4

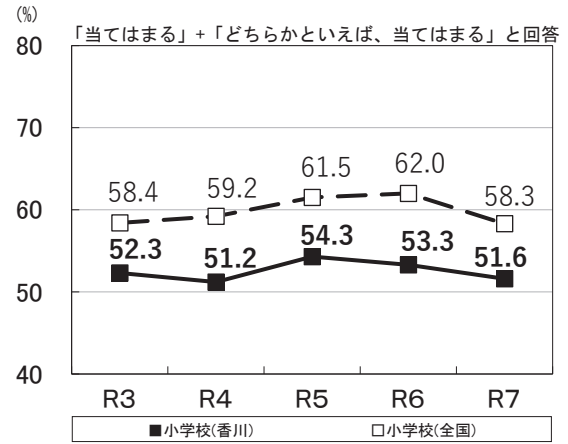
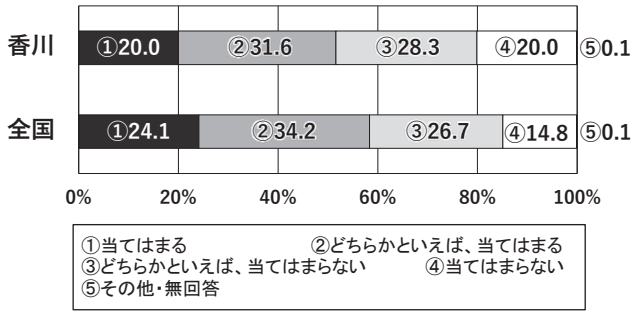
【内容】	【評価観点】	【問題形式】
話すこと・聞くこと : 話聞 書くこと : 書く 読むこと : 読む 言葉の特徴や使い方に関する事項 : 言葉 情報の扱い方に関する事項 : 情報 我が国の言語文化に関する事項 : 言文	知識・技能 : 知技 思考・判断・表現 : 思判表 主体的に取り組む態度 : 主体	選択式 : 選択 短答式 : 短答 記述式 : 記述

■小学校国語に関わる質問の全国との比較

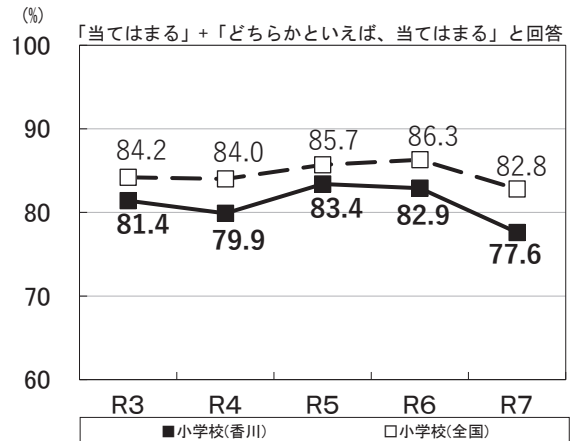
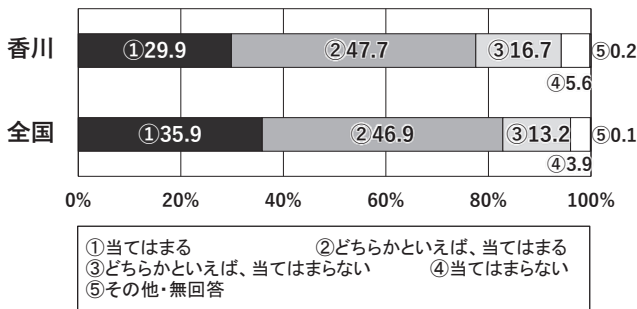


※肯定的回答とは、回答選択肢 1 + 2 を指す。（回答選択肢一覧…P104）

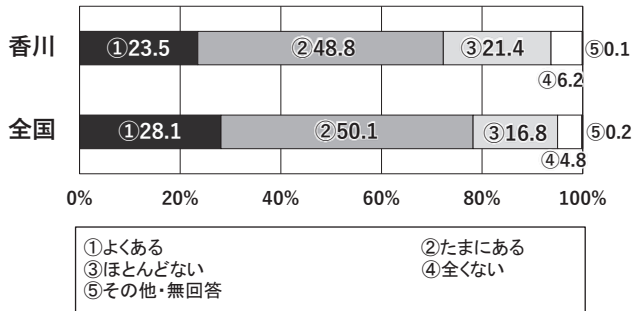
□45 国語の勉強は好きですか



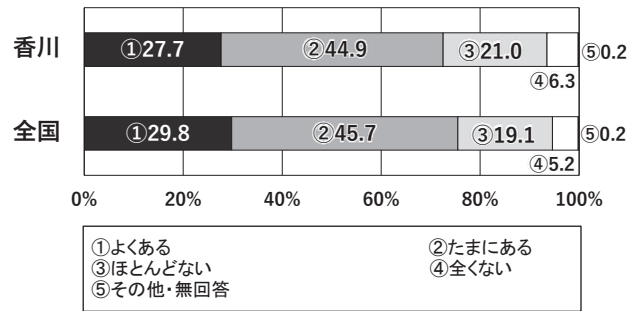
□46 国語の授業の内容はよく分かりますか



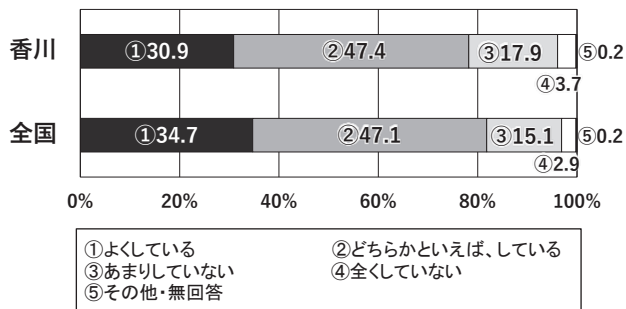
□48 国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか



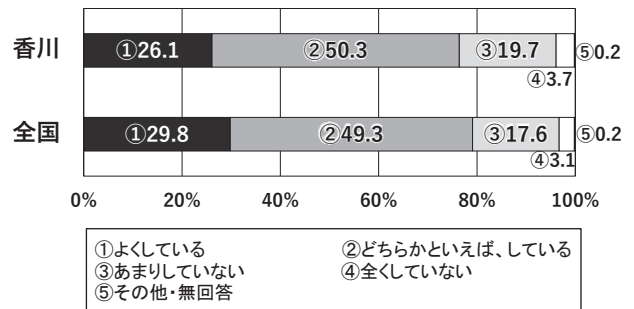
□49 国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください



□50 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか



□51 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか



目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 国語 1 一

- 一 【話し合いの様子】の小森さんは、インタビューをどのように進めようと考えて、部の発言をしましたか。最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
 - 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
 - 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
 - 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

【話し合いの様子】

小森さん 質問することを整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。きつと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだね。

小森さん 確かに、大変そうだね。『仕事で大切にしていること』で話してくれたことをきいて、『仕事で大切なこと』を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思っていたけど、大変なこともあるそうだね。大変なことがあっても仕事を続けている理由も聞きたいな。

町田さん きつと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることとやりがいについて、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。ここまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめたよ。この進め方でいいかな。

1 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分たちの興味のある仕事をしている人にインタビューをすることにしました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っています。

問題番号	解答類型	香川 反応率(%)	全国 反応率(%)	正答
1 一	1 1 と解答しているもの	8.6	9.0	
	2 2 と解答しているもの	9.1	10.8	
	3 3 と解答しているもの	24.4	26.2	
	4 4 と解答しているもの	57.3	53.3	◎
	99 上記以外の解答	0.2	0.1	
	0 無解答	0.4	0.5	
正答率		57.3	53.3	

分析・考察

- 本問題は、自分の目的や意図に応じて、相手から聞きたいことを引き出すために、質問したいことを分類したり関係付けたりして、インタビューの進め方を考えることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は57.3%で、全国と同様に6割を下回っている。
- 約25%の児童が、誤答として解答類型3を選んでる。小森さんが、複数の質問の違いを関連付けていると捉えることはできているが、働くことについて考えるために、聞きたいことを相手から引き出そうとしていると捉えることができていると考えられる。

授業改善のポイント

【目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する力を育む】

「自分の目的や意図に応じて、相手から聞きたいことを引き出す」というインタビューの目的を意識させながら、授業の中や普段の活動等で実際にインタビューする活動を仕組むことが大切である。その際には、複数の「聞きたいこと（知りたいこと）」をただ羅列して聞くのではなく、分類したり関係付けたりして、どのようにインタビューを進めたらよいかを考えることが重要である。児童にとってインタビューすること自体がその目的とならないよう、教師が示すグッドモデルや、模範となる児童たちのインタビュー内容を取り上げ、そのようにインタビューしようとした意図を捉えさせながら学習を進めたい。そうすることで、聞く目的を意識しつつ、内容を検討する力が高められると考える。また、「どのような意図で、そのように話そうとしているのか」と考えることは、全国の正答率を3.3pt 下回る結果となった1三(2)話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる手立てにもなる。

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるようにする。

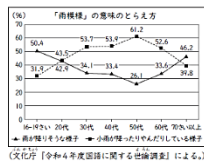
授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 国語 3 三 (1)

4 3 2 1
【資料1】の
【資料1】の
【資料1】の
【資料1】の

部④ 部③ 部② 部①

(1) 【話し合いの様子】のAに当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。



【話し合いの様子】
「話し合いの様子」は、いろいろな考え方があふれた。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことを書きましよう。

【資料1】
「話し合いの様子」は、いろいろな考え方があふれた。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことを書きましよう。

【資料2】
「話し合いの様子」は、いろいろな考え方があふれた。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことを書きましよう。

【資料3】
「話し合いの様子」は、いろいろな考え方があふれた。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことを書きましよう。

【資料4】
「話し合いの様子」は、いろいろな考え方があふれた。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことを書きましよう。

問題番号	解答類型	香川 反応率(%)	全国 反応率(%)	正答
3 三 (1)	1 1 と解答しているもの	5.5	5.2	
	2 2 と解答しているもの	33.9	33.9	
	3 3 と解答しているもの	41.2	40.8	◎
	4 4 と解答しているもの	17.0	16.4	
	99 上記以外の解答	0.3	0.2	
	0 無解答	2.2	3.4	
正答率		41.2	40.8	

分析・考察

- 本問題は、読む目的を明確にし、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は41.2%で、全国と同様、課題がある。
- 正答の次に反応率が高い、解答類型2の児童は、直前の田中さんと木村さんの会話の中から、世代によって「雨模様」の意味の捉え方に違いがあることを捉えてはいるが、そのまま【資料1】の「『本来の意味』『本来とは違う使い方』といった言い方にとどめています。」と結び付けて捉えていると考えられる。この中には、田中さんが【資料4】を読み取り、「人によって言葉の意味の捉え方が違うと、伝え合うときに困ると思う。」ということが、「コミュニケーションが食い違う」ということと結び付けていることを捉えられていない児童もいたと考えられる。

授業改善のポイント

【目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける力を育む】

目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つける力を育むには、まずは、図表などが何を表しているのかを捉えることが大切である。その上で、その図表などが表していることと、同じこと（関連していること）を表している文章はどこかを捉えていくとよい。こうした力は、本出題場面のように協働的な学びの中で図表や文章を示しながら、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることや、そう考えた理由を説明したり尋ね合ったりすることで育成される。「なぜそう考えたのか」「どこからそう感じたのか」等、その理由を問いかけ、文章や図表などの複数の情報を行き来する時間を保証する授業を目指したい。

2 小学校算数

概 要

算数について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

- 「図形」「測定」「データの活用」で上回っている。
- 「数と計算」「変化と関係」で下回っている。

■令和7年度調査結果の集計値

小学校算数	児童数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,443	149	9.5 / 16	59
全国 (公立)	936,399	18,265	9.3 / 16	58 (58.0)

■令和3年度～令和7年度の香川県と全国の調査結果

小学校算数					
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	71	65	63	64	59
全国 (公立) 平均正答率 (%)	70 (70.2)	63 (63.2)	63 (62.5)	63 (63.4)	58 (58.0)
香川と全国との差 (pt)	1	2	0	1	1

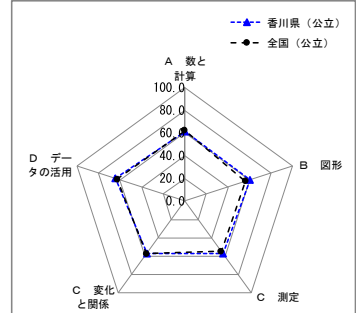
■令和３～７年度の領域別調査結果

小学校算数						
学習指導要領の領域		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	61.5	60.1	57.0	56.7	64.6
	全国（公立） 平均正答率（％）	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6
	香川と全国との差 （pt）	▲0.8	3.9	2.2	▲0.8	2.0
令和六年度	香川（公立） 平均正答率（％）	68.7	66.2		51.2	62.8
	全国（公立） 平均正答率（％）	66.0	66.3		51.7	61.8
	香川と全国との差 （pt）	2.7	▲0.1		▲0.5	1.0
令和五年度	香川（公立） 平均正答率（％）	68.3	46.1		70.6	66.8
	全国（公立） 平均正答率（％）	67.3	48.2		70.9	65.5
	香川と全国との差 （pt）	1.0	▲2.1		▲0.3	1.3
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	71.3	69.4		51.3	70.7
	全国（公立） 平均正答率（％）	69.8	64.0		51.3	68.7
	香川と全国との差 （pt）	1.5	5.4		0.0	2.0
令和三年度	香川（公立） 平均正答率（％）	65.8	58.0	76.5	76.9	75.6
	全国（公立） 平均正答率（％）	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0
	香川と全国との差 （pt）	2.7	0.1	1.7	1.0	▲0.4

■問題別調査結果【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県(公立)	全国(公立)
全体		16	59	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.5	62.3
	B 図形	4	60.1	56.2
	C 測定	2	57.0	54.8
	C 変化と関係	3	56.7	57.5
	D データの活用	5	64.6	62.6
評価の観点	知識・技能	9	66.1	65.5
	思考・判断・表現	7	50.2	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	67.7	67.2
	短答式	6	63.7	64.0
	記述式	4	39.4	34.9

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



(注)「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県(公立)	全国(公立)	香川県(公立)	全国(公立)
1(1)	2022年の全国のブロックリーの出荷量が2022年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○			○			78.9	78.7	0.4	0.4
1(2)	都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) エ(イ) イ(ア)	○				○		39.6	31.0	0.4	0.9
1(3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○			○			72.5	71.6	2.5	3.5
1(4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) イ(ア)						○			○		74.9	74.5	1.8	2.6
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○				○		62.2	58.3	0.6	1.2
2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○			○			59.3	50.2	0.6	0.7
2(3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる		4(8) ア(ア)				○			○			76.3	79.3	1.0	1.0
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる							○			○		42.7	37.0	1.6	2.7
3(1)	0.4+0.05について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ) ア(ア)					○				○		70.6	74.1	1.8	2.8
3(2)	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(6) ア(ア) イ(ア)					○				○		24.4	23.0	10.0	15.7
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) ア(イ)					○				○		30.6	35.0	5.4	7.8
3(4)	1/2+1/3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(6) ア(ア)					○				○		80.9	81.3	3.0	4.1
4(1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)			4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○			○			81.1	82.8	1.9	2.6
4(2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) ア(ア)		3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○				○		50.8	48.7	2.3	3.4
4(3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) ア(イ)			○				○		63.2	60.9	3.2	4.2
4(4)	10%増量したためかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる				5(3) イ(ア)		○				○		38.1	40.9	3.4	4.1

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を用いるために用いる知識及び技能を示している。

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【小学校算数】（全 16 問中 4 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	デ活	思判表	記述	39.6	0.4	8.6
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	図形	知技	短答	62.2	0.6	3.9
2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	図形	知技	選択	59.3	0.6	9.1
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	図形	思判表	記述	42.7	1.6	5.7

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【小学校算数】（全 16 問中 3 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2(3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	図形	知技	選択	76.3	1.0	▲3.0
3(1)	$0.4 + 0.05$ について、整数の加法で考えるとときの共通する単位を書く	計算	知技	短答	70.6	1.8	▲3.5
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	計算	知技	短答	30.6	5.4	▲4.4

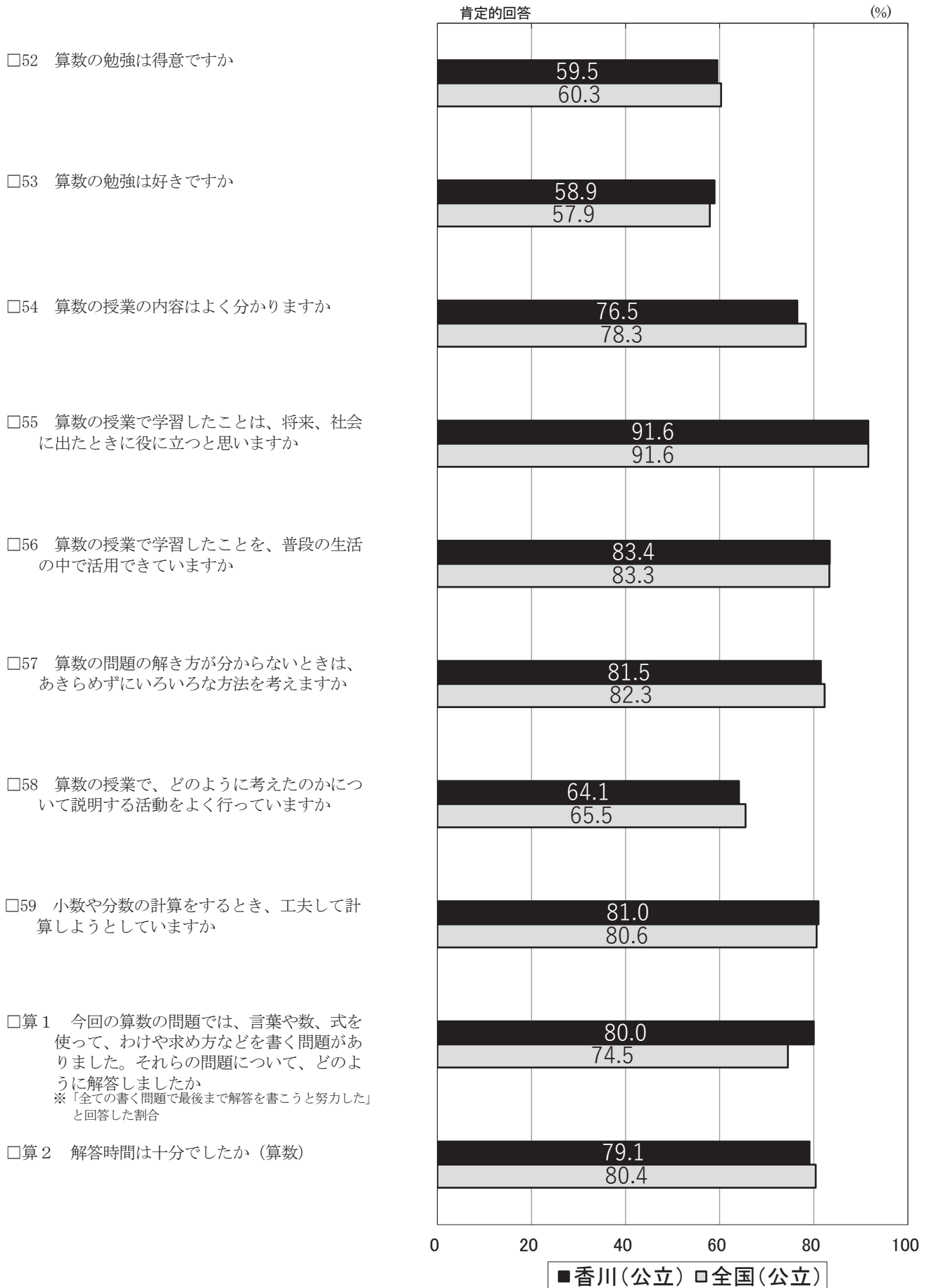
■正答率が低い問題（50%未満）

【小学校算数】（全 16 問中 5 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	デ活	思判表	記述	39.6	0.4	8.6
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	図形	思判表	記述	42.7	1.6	5.7
3(2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	計算	思判表	記述	24.4	10.0	1.4
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	計算	知技	短答	30.6	5.4	▲4.4
4(4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	変関	思判表	選択	38.1	3.4	▲2.8

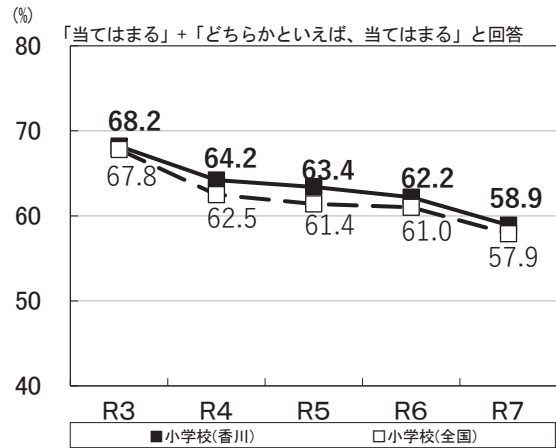
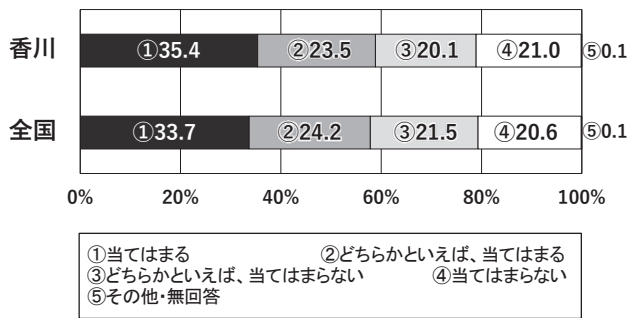
【領域】	【評価観点】	【問題形式】
数と計算 : 計算 図形 : 図形 測定 : 測定 変化と関係 : 変関 データの活用 : デ活	知識・技能 : 知技 思考・判断・表現 : 思判表 主体的に取り組む態度 : 主体	選択式: 選択 短答式: 短答 記述式: 記述

■小学校算数に関わる質問の全国との比較

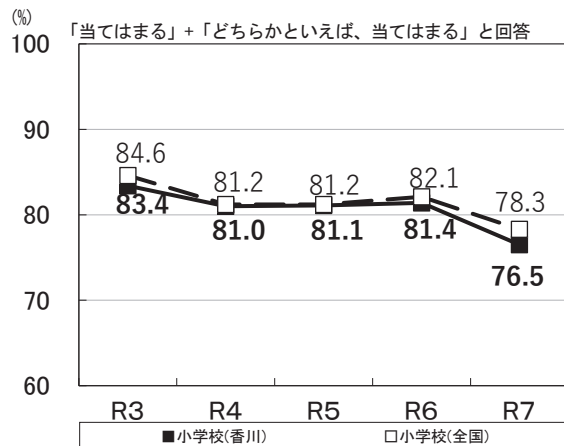
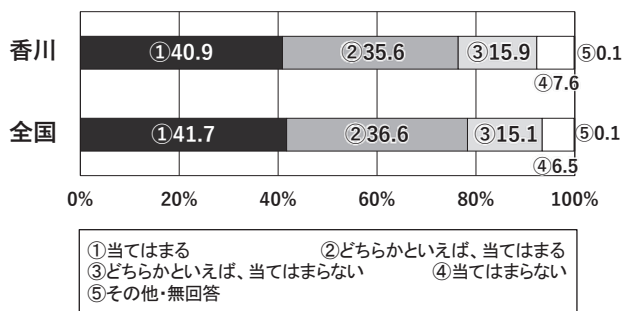


※肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。(回答選択肢一覧…P104)

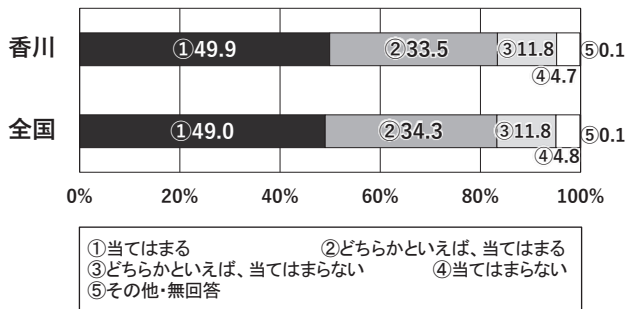
□53 算数の勉強は好きですか



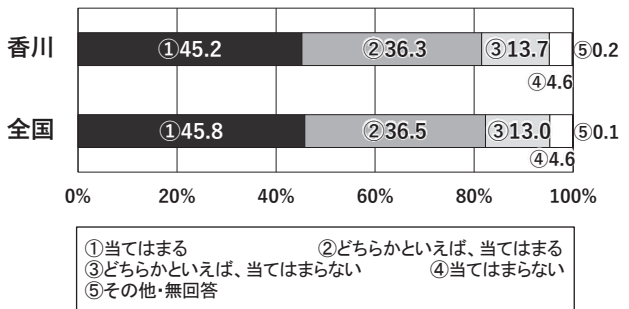
□54 算数の授業の内容はよく分かりますか



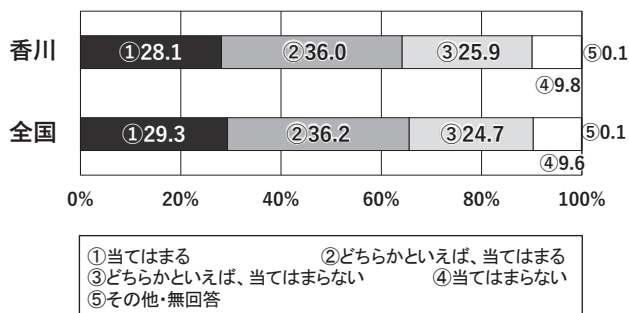
□56 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか



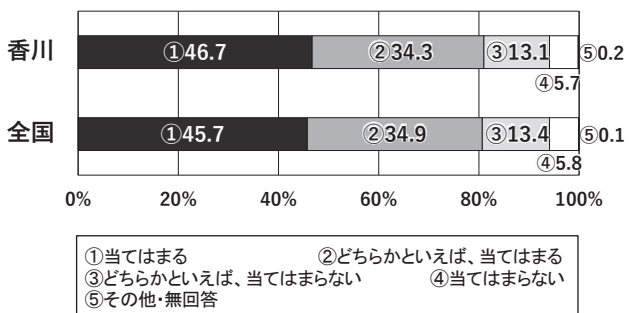
□57 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか



□58 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか



□59 小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか



小学校算数

調査結果から授業改善へ

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や整数の計算の仕方について統合的・発展的に考察することができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 算数 3(1)(2)

3

ひろとさんたちは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(1) ひろとさんは、 $0.4 + 0.3$ についてまとめています。



0.4 は 0.1 の 4 個分、0.3 は 0.1 の 3 個分です。
0.1 を ① として下の図のように表します。



0.4 + 0.3 の計算は、0.1 をもとにすると、4 + 3 を使って考えることができます。

$0.4 + 0.3$ は、0.1 をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまとめます。

0.4 は ② の 40 個分、0.05 は ② の 5 個分です。
 $0.4 + 0.05$ の計算は、② をもとにすると、40 + 5 を使って考えることができます。

上の②にはすべて同じ数が入ります。②に入る数を書きましょう。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

問題番号	解答類型	香川 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正 答
1	0.01 と解答しているもの	70.6	74.1	◎
2	0.1 と解答しているもの	9.0	8.5	
3	1 と解答しているもの	1.6	1.4	
3 (1)	4 10 と解答しているもの	3.1	2.4	
99	上記以外の解答	13.9	10.7	
0	無解答	1.8	2.8	
	正答率	70.6	74.1	

(正答の条件) 次の①、②、③の全てを書いている。 ① $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ に共通する単位分数が、 $\frac{1}{12}$ であることを表す数や言葉 (分母が 12 の倍数の単位分数を含む) ② $\frac{3}{4}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉 ③ $\frac{2}{3}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉				
問題番号	解答類型	香川 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正 答
1	①、②、③の全てを書いているもの	24.4	23.0	◎
2	②、③を書いているもの	0.3	0.3	
3	①、②を書いているもの ①、③を書いているもの	0.5	0.5	
4	①を書いているもの	6.0	6.1	
5	②を書いているもの ③を書いているもの	0.9	1.0	
3 (2)	6 通分について書いているもの	29.2	26.2	
7	$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分であること、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分であることの 両方、又はどちらか一方を書いているもの	6.7	4.4	
99	上記以外の解答	22.1	22.8	
0	無解答	10.0	15.7	
	正答率	24.4	23.0	

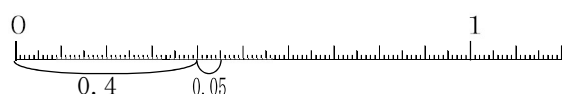
- [3] (1) は、小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は70.6%であり、全国の正答率を3.5pt下回っている。全国と比較して、本県では、小数の場合に、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることに難しさを感じている児童が多いことが分かる。
- [3] (2) は、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題である。全国と比べて上回っているものの、本県の正答率は24.4%であり、30%を下回っている。解答類型をみると、通分について書いているものが29.2%と最も多くなっていることから、異分母分数の加法について、通分をすれば計算できることは分かっているが、単位分数をそろえて計算する意義についての理解が不十分であったのではないかと推察する。

授業改善のポイント

【異なる単位どうしの加法も、単位をそろえれば計算できることを理解できるようにする】

小数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して計算の仕方を考えるためには、その仕組みについて理解しておくことが前提となる。そのため、第4学年「小数」の学習において、単元の学習を通して、液量図、数直線、位取り板などといった、様々な数学的な表現方法を用いて、小数の仕組みを捉えられるようにする。例えば、[3] (1) の問題のような数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉える力を身に付けさせるためには、計算の仕方を学習する前の大きさ比べの学習場面で、全ての児童が数直線を使って数の大きさを視覚的に捉える経験をする。

本設問の指導に当たっては、 $0.4 + 0.05$ について、その経験を踏まえ、もとにする数を幾つにすれば、既習の整数の加法に帰着できるか考察する活動を設定する。言葉だけの説明では分かりにくいと感じている児童も、数直線を用いて考えることで、0.01 を共通する単位として、 $40 + 5$ という既習の整数の加法に帰着して考えることができるだろう。このような数の仕組みに基づいた系統的な指導は、[3] (3) 数直線上に示された分数を読み取る場面においても有効である。

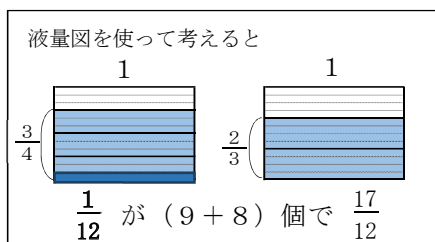


数直線をみると、0.4 は 0.01 を 40 個、0.05 は 0.01 を 5 個集めた数だと分かるよ。0.01 をもとにすると、 $40 + 5$ で計算できるのだね。

【既習事項とつないで、解決に用いた数学的な考え方を自覚させる】

[3] (2) の問題を解決できるようにするためには、形式的に通分をして計算するのではなく、通分によって単位分数をそろえ、その幾つ分で考えれば整数の計算に帰着できることに気付けるようにすることが大切である。例えば、本設問を用いて授業を行う際には、児童の多様な考えをもとに話し合う活動を充実させることが考えられる。

(例)



通分して考えると

$$\begin{aligned}\frac{3}{4} &= \frac{3 \times 3}{4 \times 3} = \frac{9}{12} \\ \frac{2}{3} &= \frac{2 \times 4}{3 \times 4} = \frac{8}{12} \\ \frac{9}{12} + \frac{8}{12} &= \frac{17}{12}\end{aligned}$$

考え方の共通点を問う

2つの考え方の共通点はありますか？

そのように考えた理由を問う

なぜ、分母を 12 にそろえたのですか？

これまで学習してきたこととのつながりを問う

これまでの勉強と同じところはありますか？

どちらの考えも、分母を 12 にそろえて計算しています。

どちらも、 $\frac{1}{12}$ の幾つ分で考えています。

分数はもとになる分数を同じにするとただの $9 + 8$ で計算できるからです。

もとにする数をそろえることが同じだね。

小数や分母が同じ分数のたし算でも、同じように考えたね。

全体で

共通する単位を考えることは、加法や減法の計算の基本になる考え方である。児童がその大切さを自覚し、「これも同じだ」と統合的に考察したり、「この場合も計算できるかな」と発展的に考察したりできるように、教師は系統性を意識し、板書や発問等の指導を工夫していくことが大切である。

3 小学校理科

概 要

理科について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

- 「『粒子』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」で上回っている。
- 「『生命』を柱とする領域」は同等である。
- 「『エネルギー』を柱とする領域」で下回っている。

■令和7年度調査結果の集計値

小学校理科	児童数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,433	148	9.7 / 17	57
全国 (公立)	936,576	18,150	9.7 / 17	57 (57.1)

■平成24・27・30・令和4・7年度の香川県と全国の調査結果

小学校理科					
調査年度	H24	H27	H30	R 4	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	64.3	62.3	60	63	57
全国 (公立) 平均正答率 (%)	60.9	60.8	60 (60.3)	63 (63.3)	57 (57.1)
香川と全国との差 (pt)	3.4	1.5	0	0	0

■令和４・７年度の区分・領域別調査結果

	小学校理科				
	学習指導要領の区分・領域	A区分		B区分	
		「エネルギー」を 柱とする領域	「粒子」を 柱とする領域	「生命」を 柱とする領域	「地球」を 柱とする領域
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	45.8	52.3	52.0	66.9
	全国（公立） 平均正答率（％）	46.7	51.4	52.0	66.7
	香川と全国との差（pt）	▲0.9	0.9	0.0	0.2
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	51.6	59.5	75.6	64.0
	全国（公立） 平均正答率（％）	51.6	60.4	75.0	64.6
	香川と全国との差（pt）	0.0	▲0.9	0.6	▲0.6

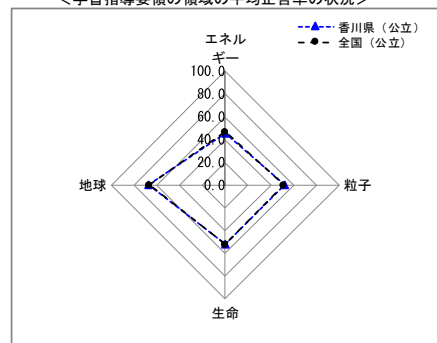
■平成24・27・30年度の区分・内容別調査結果

	小学校理科				
	学習指導要領の区分・内容	A区分		B区分	
		エネルギー	物質	生命	地球
平成三十年代	香川（公立） 平均正答率（％）	53.9	58.5	71.6	49.4
	全国（公立） 平均正答率（％）	53.1	59.8	73.6	49.5
	香川と全国との差（pt）	0.8	▲1.3	▲2.0	▲0.1
平成二十七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	66.5	58.5	63.4	58.7
	全国（公立） 平均正答率（％）	65.6	57.4	61.2	57.8
	香川と全国との差（pt）	0.9	1.1	2.2	0.9
平成二十四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	65.7	65.3	70.1	53.5
	全国（公立） 平均正答率（％）	59.8	61.4	68.6	50.6
	香川と全国との差（pt）	5.9	3.9	1.5	2.9

問題別調査結果【理科】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
全体			17	57	57.1
学習指導 要領の 区分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	45.8	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	52.3	51.4
	B 区分	「生命」を柱とする領域	4	52.0	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	66.9	66.7
評価の観点		知識・技能	8	55.2	55.3
		思考・判断・表現	9	59.2	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	11	54.8	54.7
		短答式	4	69.6	69.7
		記述式	2	46.8	45.2

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



(注) 「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A区分		B区分		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県 (公立)	全国 (公立)	香川県 (公立)	全国 (公立)
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域										
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (イ)※			○			○		76.3	79.5	1.4	2.5
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (イ)※			○			○		64.4	60.5	4.5	8.5
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (イ)※			○		○			77.4	77.8	0.6	0.9
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3 A (5)ア (イ)※	3 A (4)ア (イ)※			○			○			11.2	10.6	0.4	0.6
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3 A (5)ア (イ)※					○		○			42.5	42.9	0.3	0.6
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5 A (3)ア (イ)				○				○		78.4	78.0	1.4	2.7
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4 A (3)ア (イ)				○			○			51.1	55.1	0.5	0.8
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる		5 B (1)ア (イ)			○				○		70.2	70.7	0.9	1.5
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる		5 B (1)ア			○			○			47.0	45.6	0.6	0.8
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる		5 B (1)ア (イ)※				○		○			61.6	62.0	1.0	1.7
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる		5 B (1)イ				○			○		29.1	29.9	6.2	11.4
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※					○			○		53.4	50.6	3.3	6.1
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)	4 B (4)ア (イ)			○			○			64.8	64.2	0.9	1.3
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)	4 B (4)ア (イ)			○			○			56.4	57.5	1.0	1.5
4 (3) カ	海にある水がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※					○		○			59.7	59.8	1.5	2.3
4 (3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる		4 B (3)ア (イ)			○			○			62.4	60.9	1.5	2.4
4 (3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※					○		○			68.4	65.6	1.5	2.5

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を見るために用いる知識及び技能を示している。

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【小学校理科】（全 17 問中 1 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	地球	思判表	記述	64.4	4.5	3.9

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【小学校理科】（全 17 問中 2 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	地球	思判表	短答	76.3	1.4	▲3.2
2(4)	乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	エネ	知技	選択	51.1	0.5	▲4.0

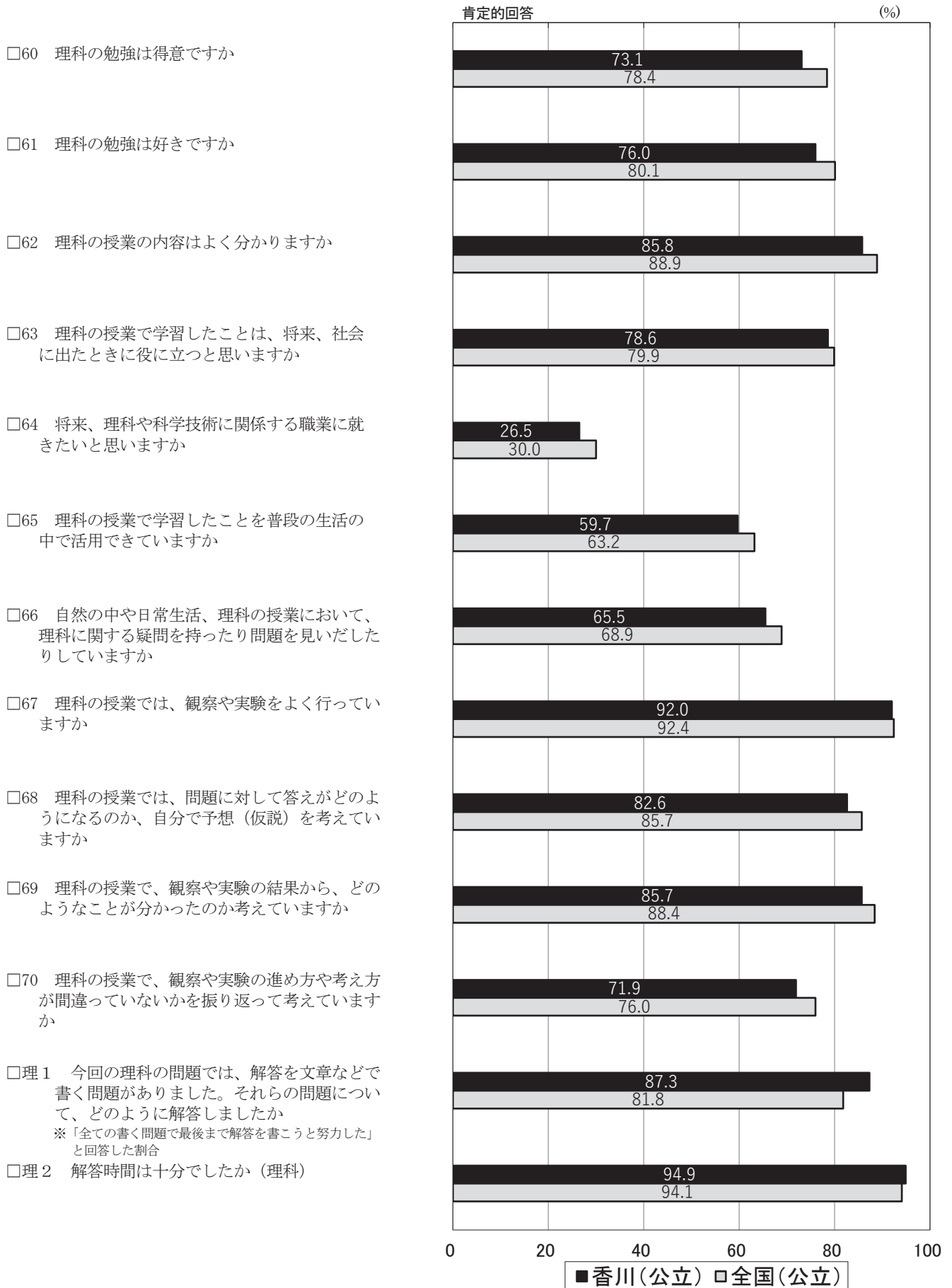
■正答率が低い問題（50%未満）

【小学校理科】（全 17 問中 4 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	エネ 粒子	知技	選択	11.2	0.4	0.6
2(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	エネ	思判表	選択	42.5	0.3	▲0.4
3(2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	生命	知技	選択	47.0	0.6	1.4
3(4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	生命	思判表	記述	29.1	6.2	▲0.8

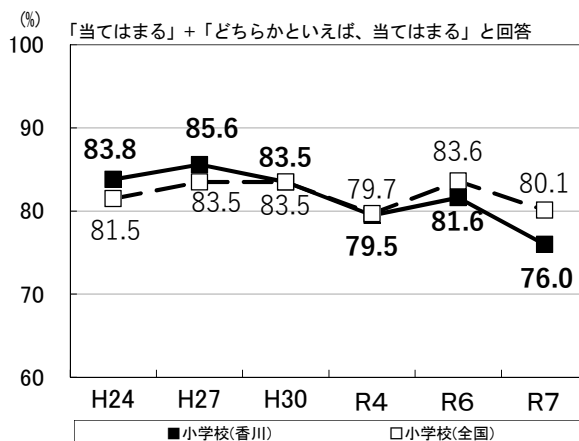
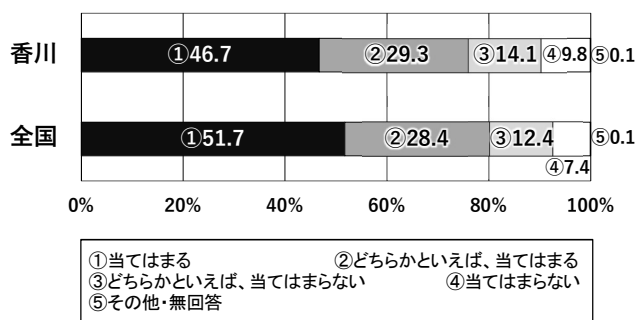
【領域】	【評価観点】	【問題形式】
エネルギー 粒子 生命 地球	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む態度	選択式：選択 短答式：短答 記述式：記述

■小学校理科に関わる質問の全国との比較

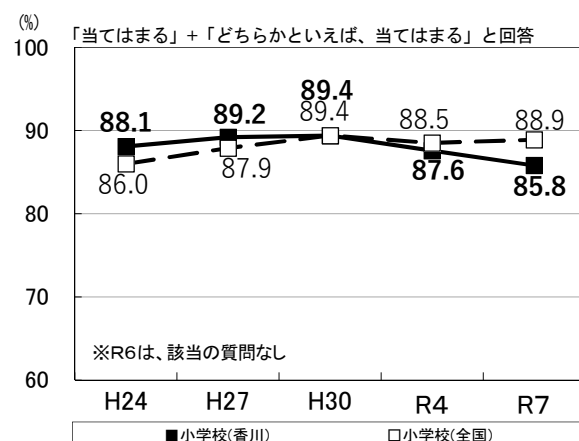
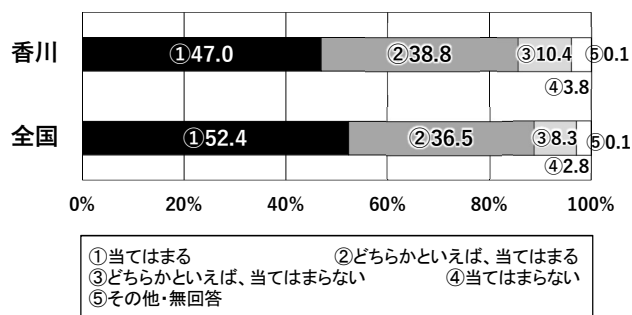


※肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。(回答選択肢一覧…P104)

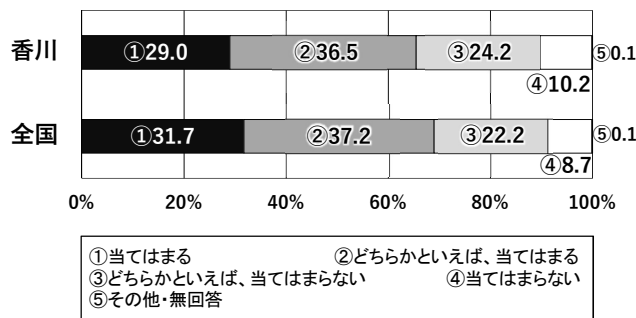
□61 理科の勉強は好きですか



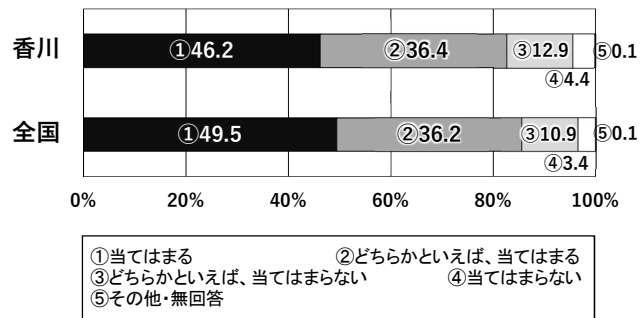
□62 理科の授業の内容はよく分かりますか



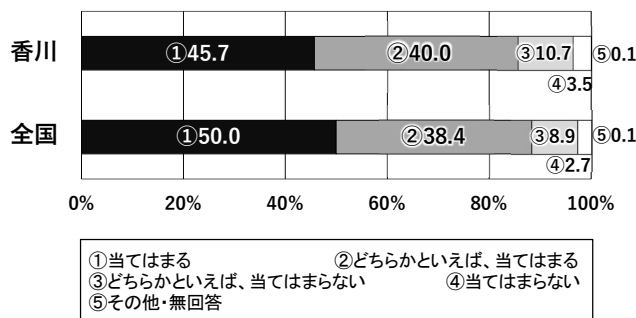
□66 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか



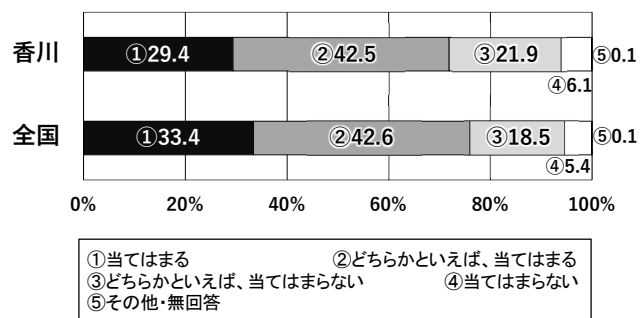
□68 理科の授業では、問題に対して答えがどのようなものか、自分で予想(仮説)を考えていますか



□69 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



□70 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか



小学校理科

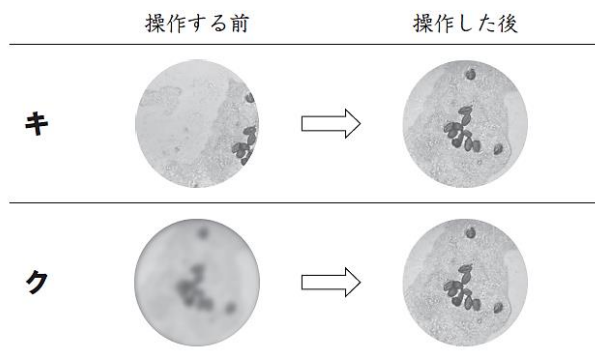
調査結果から授業改善へ

器具や機器の操作にどのような意味があるのかを理解し、実験の目的に応じて正しく取り扱うことができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 理科 3(2)

3 (2) けんび鏡を操作したとき、キとクのように、操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか、下の1から4の中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 対物レンズをちがう倍率のものにした
- 2 プレパラートを動かした
- 3 明るさを調節した
- 4 調節ねじを回した

	香川 反応率(%)	全国 反応率(%)	解答類型
正答率	47.0	45.6	1
キの正答率	87.6	85.7	1 と 2
クの正答率	49.4	48.1	1 と 3
無解答	0.6	0.8	0

分析・考察

- 本問題の本県の正答率は、47.0%であり、全国の正答率を1.4pt上回っている。キ、クそれぞれの正答率も全国の正答率を少し上回っている。
- キの「プレパラートを動かした」の正答率は87.6%であるが、クの「調節ねじを回した」の正答率は49.4%と低い。これは、調節ねじがピントを調整するものか、明るさを調整するものか、倍率を調整するものか混同していると考えられる。

授業改善のポイント

【個々が器具や機器の操作の意味と正しい扱い方を理解した上で操作技能を高められるようにする】

児童に器具や機器を操作させる活動では、正しい扱い方だけでなく、その操作の意味も理解させることが重要である。また、グループ毎に実験を行わせる場合、一部の限られた児童のみが器具や機器を扱うことがないよう留意する必要がある。

例えば、顕微鏡の使い方も習得するために、【①顕微鏡を置く②接眼レンズをのぞきながら鏡を調節し光を入れる③プレパラートをステージにのせる④横から見ながらプレパラートと対物レンズ（低倍率）を近づける⑤接眼レンズをのぞきながら調節ねじを回してピントを合わせる】を繰り返して指導し、それぞれの操作と順序が、意味があるということを経験によって理解させることが重要である。操作方法を一斉指導する際には、操作方法を解説したデジタルコンテンツ（動画等）を活用すると短時間で効率よく説明できる。さらに一人一台端末と併せて活用すれば、児童が手元で必要な時に何度も繰り返して操作方法を確認できる。

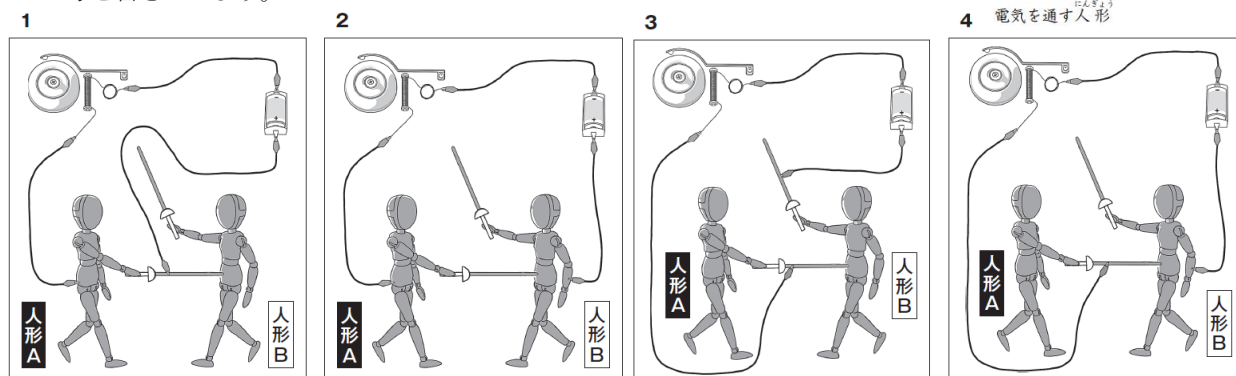
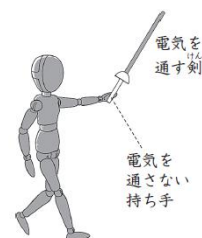
また、器具や機器を扱う機会を全員にできるだけ多く確保するためには、観察・実験を行うグループをできるだけ少人数に設定する方法が考えられる。その他、あいまいな結果を検証するための観察・実験や児童の新たな気付きや疑問に応じた追加の観察・実験を設定することも考えられる。観察・実験の回数が増えることでデータも増えるが、これらを効率よく短時間で整理する際にも ICT は効果的に活用できる。

理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想し、表現できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 理科 2(2)

- 2 (2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



		解答類型			
		1	2	3	4
		1と解答しているもの	2と解答しているもの	3と解答しているもの	4と解答しているもの
反 率 %	香川	7.2	19.6	30.2	42.5
	全国	7.2	18.9	30.1	42.9

分析・考察

- 本問題の本県の正答率は、42.5%であり、全国の正答率を0.4pt下回っている。理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想し、表現することに課題がある。
- 1を選んだ7.2%の児童は、人形Aだけの回路であり、「人形Aの剣を人形Bに当てたとき」と関係ない回路となっている。このことから、電気を通すつなぎ方に関する知識を身に付けることと、目的に沿った観察、実験の計画を発想し、表現することに課題があると考えられる。
- 2を選んだ19.6%の児童と3を選んだ30.2%の児童は、「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれている回路を選んでおり、「持ち手」が回路を断っていることに思い至っていない。このことから、電気を通すつなぎ方に関する知識を身に付けることに課題があると考えられる。

授業改善のポイント

【児童の興味を引きだし、主体的な問題解決を進める】

理科では、学習者主体の問題解決学習が重要である。こうした問題解決学習を支える教材として、本設問のような実験装置やものづくりが考えられる。その際には、「〇〇だから、きっと△△になるだろう」という個の思考を大切に自分なりに表現させることが重要である。

【つく、つかない事実と回路の概念を繰り返し体感させる】

回路に電気が流れるかどうかを確かめる実験装置はクリップの位置を変えることによって、様々な回路を自由につくることができる。電気が流れる、流れない事実と回路の概念をつないで繰り返し考えることを大切にしたい。その際、豆電球や乾電池、スイッチなどを並べた回路の図や写真に線を書き入れ、電流の流れが輪になることを押さえたい。

【日常生活にも広がるようにする】

私たちの生活は電気製品にあふれている。停電、断線、接触不良などにより使用できなくなることもある。その際、回路の概念とつないで「どこかで、回路が途切れているのだろう」と考えられるようにしたい。

4 中学校国語

概 要

国語について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」で下回っている。

■令和7年度調査結果の集計値

中学校国語	生徒数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,095	64	7.4 / 14	53
全国 (公立)	870,560	9,244	7.6 / 14	54 (54.3)

■令和3年度～7年度の香川県と全国の調査結果

中学校国語					
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	64	70	70	57	53
全国 (公立) 平均正答率 (%)	65 (64.6)	69 (69.0)	70 (69.8)	58 (58.1)	54 (54.3)
香川と全国との差 (pt)	▲1	1	0	▲1	1

■令和４～７年度の内容別調査結果

中学校国語							
学習指導要領の内容		思考力、判断力、表現力等			知識及び技能		
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文 化に関する事項
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	51.8	52.6	59.9	47.4		
	全国（公立） 平均正答率（％）	53.2	52.8	62.3	48.1		
	香川と全国との差 （pt）	▲1.4	▲0.2	▲2.4	▲0.7		
令和六年度	香川（公立） 平均正答率（％）	56.5	64.3	46.7	59.4	58.5	72.7
	全国（公立） 平均正答率（％）	58.8	65.3	47.9	59.2	59.6	75.6
	香川と全国との差 （pt）	▲2.3	▲1.0	▲1.2	0.2	▲1.1	▲2.9
令和五年度	香川（公立） 平均正答率（％）	81.8	62.8	63.8	64.4	64.5	77.4
	全国（公立） 平均正答率（％）	82.2	63.2	63.7	67.5	63.4	74.7
	香川と全国との差 （pt）	▲0.4	▲0.4	0.1	▲3.1	1.1	2.7
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	65.7	50.3	67.5	73.3	50.3	70.2
	全国（公立） 平均正答率（％）	63.9	46.5	67.9	72.2	46.5	70.2
	香川と全国との差 （pt）	1.8	3.8	▲0.4	1.1	3.8	0.0

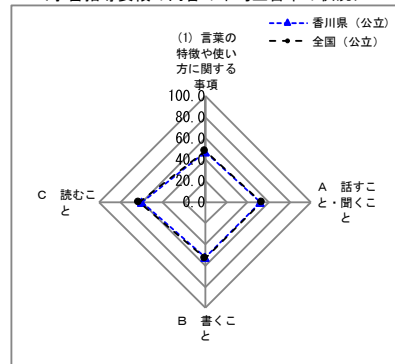
■令和３年度の領域等別調査結果

中学校国語					
学習指導要領の領域等		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
令和三年度	香川（公立） 平均正答率（％）	79.0	56.2	48.3	76.4
	全国（公立） 平均正答率（％）	79.8	57.1	48.5	75.1
	香川と全国との差 （pt）	▲0.8	▲0.9	▲0.2	▲0.5

問題別調査結果【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				香川県(公立)	全国(公立)
全体			14	53	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	47.4	48.1
		(2)情報の扱い方にに関する事項	0		
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	51.8	53.2
		B 書くこと	5	52.6	52.8
		C 読むこと	3	59.9	62.3
評価の観点		知識・技能	2	47.4	48.1
		思考・判断・表現	12	54.1	55.3
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	8	62.2	63.9
		短答式	2	73.9	73.6
		記述式	4	24.8	25.3

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、 表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県 (公立)	全国 (公立)	香川県 (公立)	全国 (公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に に関する事項	(2) 情報の扱い方に に関する事項	(3) 我が国の言語文化に に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと										
1一	変換した漢字として適切なものを選択する (かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2ウ						○			○			31.3	35.2	0.3	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				1ア			○			○			81.0	82.5	0.3	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる				1イ			○			○			60.8	63.3	0.5	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ			○				○		29.9	31.0	1.7	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○			○			38.1	38.1	0.5	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1ウ			○			○			77.8	77.9	0.5	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる				2イ			○			○			69.0	73.4	0.8	0.6
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○				○		22.2	23.2	4.1	4.0
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる						1エ	○			○			76.2	80.0	0.8	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる						2ア	○				○		87.5	89.9	5.1	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる	1ウ						○			○			63.5	61.0	1.1	0.8
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる						1エ	○				○		16.1	17.1	28.5	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる						1エ	○				○		60.4	57.3	31.0	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる						1エ	○				○		30.8	30.1	17.9	19.1

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【中学校国語】（全 14 問中 1 問）

問題番号	問題の概要	内容	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
4 一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	書く	思判表	短答	60.4	31.0	3.1

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【中学校国語】（全 14 問中 3 問）

問題番号	問題の概要	内容	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1 一	変換した漢字として適切なものを選択する（ <u>かいしん</u> ）	言葉	知技	選択	31.3	0.3	▲3.9
2 三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	話聞	思判表	選択	69.0	0.8	▲4.4
3 一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	読む	思判表	選択	76.2	0.8	▲3.8

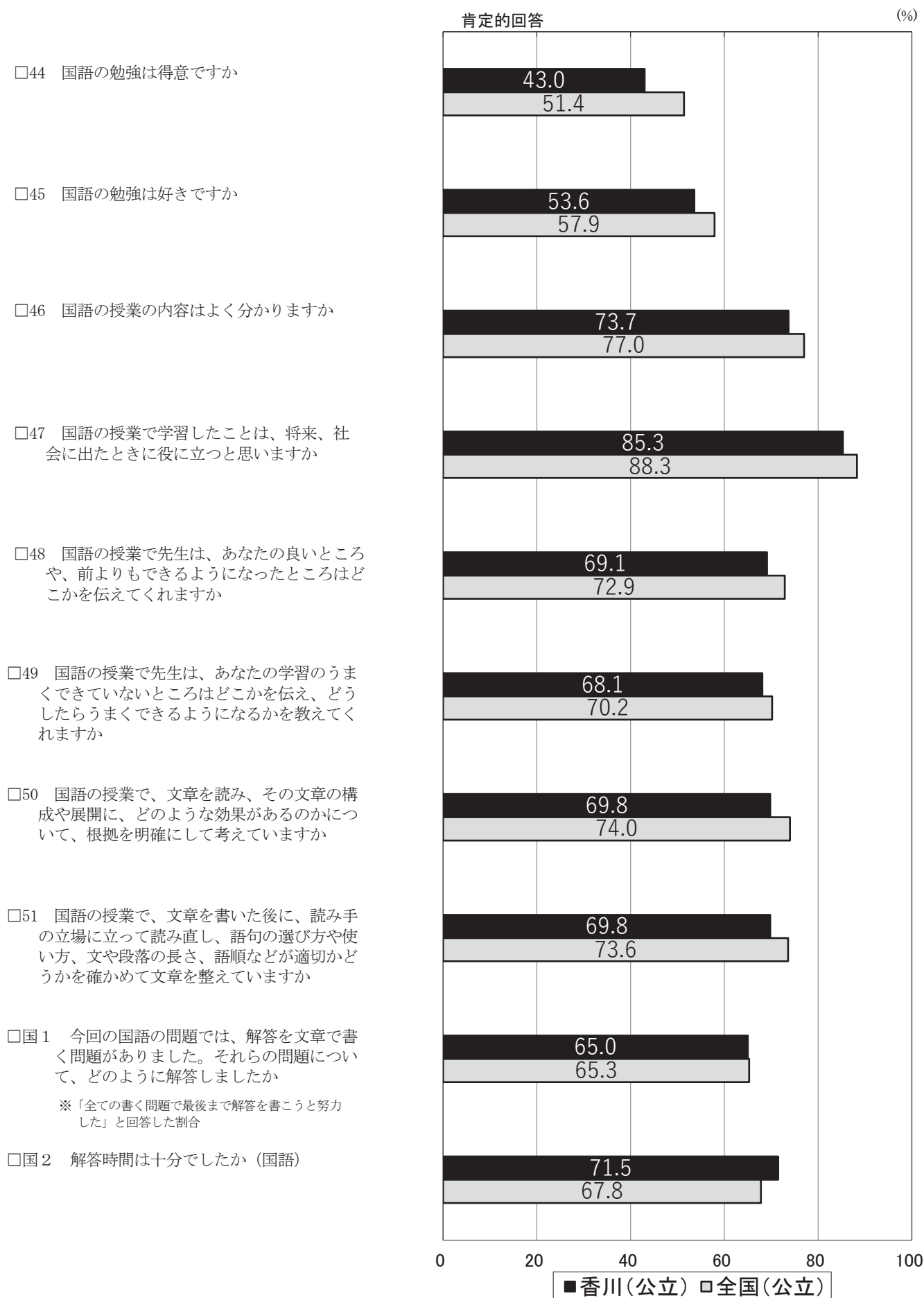
■正答率が低い問題（50%未満）

【中学校国語】（全 14 問中 6 問）

問題番号	問題の概要	内容	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1 一	変換した漢字として適切なものを選択する（ <u>かいしん</u> ）	言葉	知技	選択	31.3	0.3	▲3.9
1 四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	書く	思判表	記述	29.9	1.7	▲1.1
2 一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	話聞	思判表	選択	38.1	0.5	0.0
2 四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	話聞	思判表	記述	22.2	4.1	▲1.0
3 四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く	読む	思判表	記述	16.1	28.5	▲1.0
4 二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	書く	思判表	記述	30.8	17.9	0.7

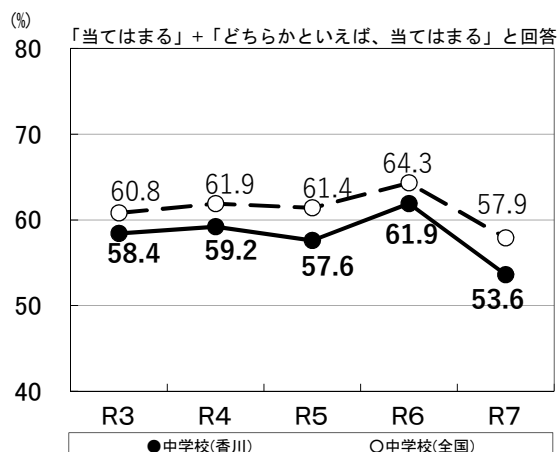
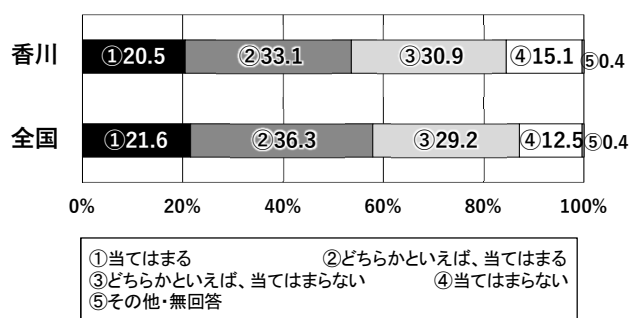
【内容】	【評価観点】	【問題形式】
話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 言葉の特徴や使い方に関する事項 情報の扱い方に関する事項 我が国の言語文化に関する事項	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む態度	選択式：選択 短答式：短答 記述式：記述

■中学校国語に関わる質問の全国との比較

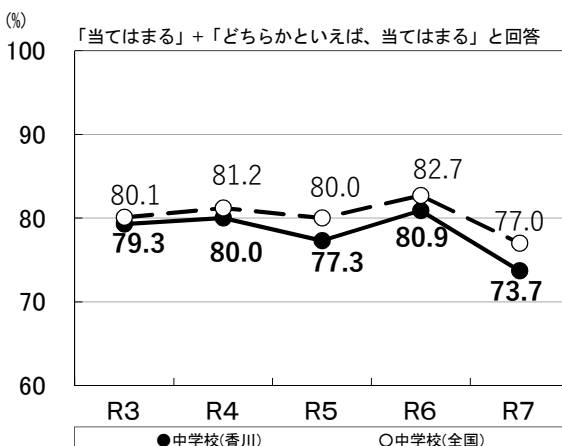
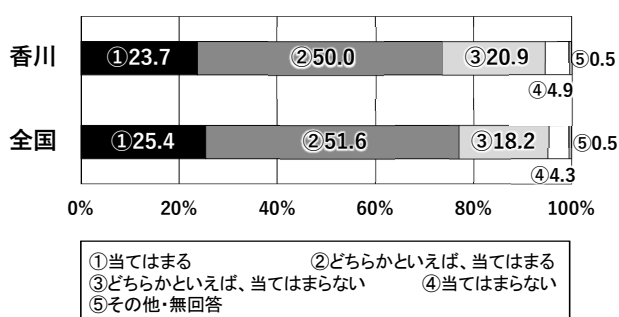


※肯定的な回答とは、回答選択肢 1 + 2 を指す。（回答選択肢一覧…P104）

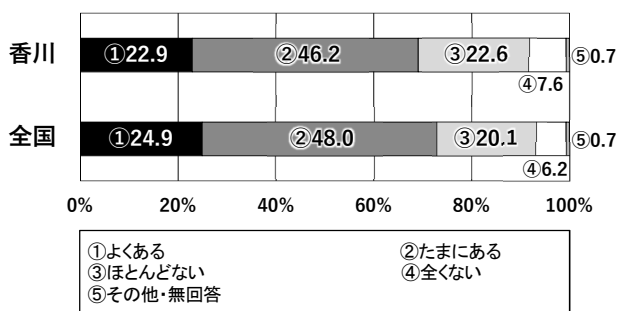
□45 国語の勉強は好きですか



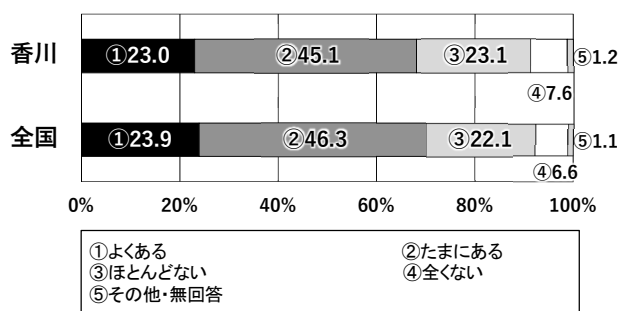
□46 国語の授業の内容はよく分かりますか



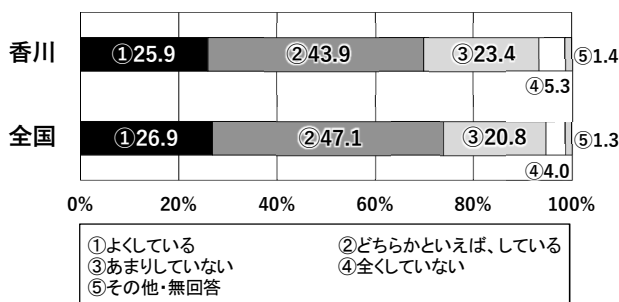
□48 国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか



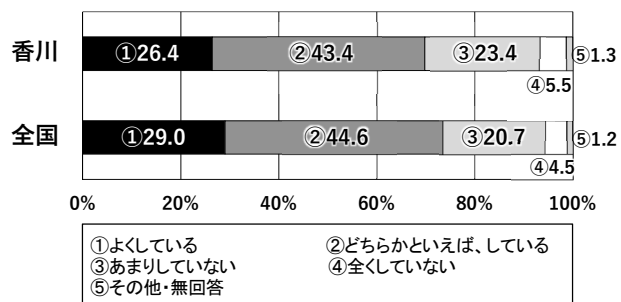
□49 国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいますか



□50 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか



□51 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか



中学校国語

調査結果から授業改善へ

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 国語 1 四

1 第一中学校では、毎年、美術の時間につくった作品を展示する美術展を行っています。今年は、昨年美術展に来場した小学生の感想をもとに、内容を工夫して開催します。実行委員の中井さんは、地域の小学校6年生に向けて、来場を促すためのちらしを作成することにしました。

四 今年美術展では、昨年美術展に来場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】(更新版②)の□の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 今年美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び(どちらを選んでもかまいません。)、それと結び付く小学生の【感想の一部】をアからウまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、今年美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

【工夫】

- A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。
B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

- ア どうやってあんなすばらしい作品をつくったのか知りたくなりました。美術でどんなことを学べるのか楽しみです。
イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。
ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。

問題番号	解答類型	県 反応率(%)	全国 反応率(%)	正答
1 四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【工夫】のいずれか一方と、【感想の一部】のいずれか一方を選んで、選んだ記号を塗り潰している。 ② 選んだ【工夫】に結び付く【感想の一部】を選んでいる。 ③ 選んだ【工夫】の内容と【感想の一部】の内容を適切に取り上げて書いている。 ④ 接続する語句や指示する語句を用いて、選んだ【工夫】と【感想の一部】とを適切に関係付けて書いている。			
	1 条件①、②、③、④を満たして解答しているもの	29.9	31.0	◎
	2 条件①、②、③を満たし、条件④を満たさないで解答しているもの	7.6	8.2	
	3 条件①、②、④を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.2	0.2	
	99 上記以外の解答	60.5	59.0	
	0 無解答	1.7	1.6	
正答率		29.9	31.0	

【ちらし】(更新版③)

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれも思いのこもった作品です。

今年、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日時 令和7年11月15日(土) 10時～16時

場所 第一中学校 体育館

会場

受付

1年生の作品
(水彩画)

2年生の作品
(ポスター)

体験コーナー
(ペン立てづくり)

3年生の作品
(彫刻)

体験できる時間(各回30分間)
◎10時～ ◎11時～ ◎12時～ ◎13時～
中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

第一小学校6年生のみみなさんへ

分析・考察

- 本問題は、読み手に向けて、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は、29.9%で全国の正答率を1.1pt下回っている。
- 解答類型2、3の反応率の合計は、7.8%で、解答類型99の反応率は、60.5%である。特に、解答類型99の生徒は、選んだ【工夫】に結び付く【感想の一部】を選ぶことができなかったり、条件1、2で示された複数の情報を漏れなく選択し、再構成することができなかったりしたと考えられる。

授業改善のポイント

【実生活での活用を意識できる言語活動を設定し、読み手からのフィードバックを生かしてねらいに迫る】

授業においては、総合的な学習の時間や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に自分が書いた文章で相手に伝えたり、相手の反応を受け取ったりできる言語活動を設定したい。

その際、〔知識及び技能〕の(2)ア「原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。」との関連を図り、「誰に(相手)」「何を(事柄)」「何のために(目的)」伝えるのか情報を項目ごとに分類・整理した上で、情報の根拠を明確にして、自分の考えが伝わる文章にする必要がある。また、友人と互いに書いたものを読み合い、読み手にとって必要な情報が入っているかということや書き手の意図が伝わるか等を確認することで、自分の文章を振り返ることにもつなげたい。

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 国語 3 四

問題 番号	解答類型	県 反応率(%)	全国 反応率(%)	正答
3 四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① どのような効果があるかを書いている。 ② ①について考えた理由を、「破線囲みの部分のような『あとに続く話』が『一 榎木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。 ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。			
	1 条件①、②、③を満たして解答しているもの	16.1	17.1	◎
	2 条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.1	0.1	
	3 条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	32.7	34.2	
	99 上記以外の解答	22.6	20.5	
	0 無解答	28.5	28.1	
	正答率	16.1	17.1	

3 次（の）文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

四 「――」で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面（の）あとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「二 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

分析・考察

- 本問題は、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は、16.1%で全国（の）正答率を1.0pt下回っている。また、本県の無解答率も28.5%と他の問題と比較しても高い数値である。
- 解答類型3の反応率は、32.7%である。解答類型3の生徒は、物語の内容を根拠として作品の展開の効果を考えることはできるが、理由を考える際、『一 榎木の実』と『二 釣の話』の物語の展開を比較したことを踏まえて書くことができていないと考えられる。

授業改善のポイント

【複数の文章を読み比べることを通して読みを深め、読書活動の充実につなげる】

表現の効果について考えるときには、表現が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。また、自分の考えを支える根拠も明確に示すことが求められる。本設問のように、二つの文章を読み比べることで、それぞれの文章の表現の特徴が捉えやすくなり、読みを深めることにつながる。読み比べる際には、既習事項を生かし、登場人物・出来事・結末・情景描写等の比較の観点を定めて類似点や相違点を考えることも大切である。表現の効果についての自分の考えが定まった後は、共有する時間を持ちたい。それぞれの作品の類似点や相違点を具体的に示しながら、互いに自分の考えを伝えることで、他者の考えやその根拠等を基に、さらに自分の考えを広げたり、深めたりすることにつなげたい。

今回のように章段が異なる同一作品を授業で扱う際には、扱う作品以外の同一作者の作品を生徒の実態に応じて紹介することも考えられる。このように、「〔知識及び技能〕の(3)オ「読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。」と関連を図ることで、生徒が読書の範囲を広げるきっかけになると考えられる。

5 中学校数学

概 要

数学について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

- 「図形」「関数」「データの活用」で上回っている。
- 「数と式」で下回っている。

■令和7年度調査結果の集計値

中学校数学	生徒数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,098	64	7.3 / 15	49
全国 (公立)	871,097	9,243	7.2 / 15	48 (48.3)

■令和3年度～7年度の県と全国の調査結果

中学校数学					
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	56	55	53	53	49
全国 (公立) 平均正答率 (%)	57 (57.2)	51 (51.4)	51 (51.0)	53 (52.5)	48 (48.3)
香川と全国との差 (pt)	▲1	4	2	0	1

■令和４～７年度の領域別調査結果

中学校数学					
学習指導要領の領域		数と式	図形	関数	データの活用
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	43.2	47.8	48.7	59.0
	全国（公立） 平均正答率（％）	43.5	46.5	48.2	58.6
	香川と全国との差 （pt）	▲0.3	1.3	0.5	0.4
令和六年度	香川（公立） 平均正答率（％）	52.8	39.9	60.7	55.6
	全国（公立） 平均正答率（％）	51.1	40.3	60.7	55.5
	香川と全国との差 （pt）	1.7	▲0.4	0.0	0.1
令和五年度	香川（公立） 平均正答率（％）	64.4	34.8	51.9	52.3
	全国（公立） 平均正答率（％）	63.0	33.2	51.2	48.5
	香川と全国との差 （pt）	1.4	1.6	0.7	3.8
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	64.8	44.5	47.2	57.8
	全国（公立） 平均正答率（％）	57.4	43.6	43.6	57.1
	香川と全国との差 （pt）	7.4	0.9	3.6	0.7

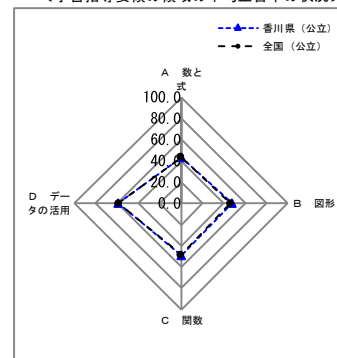
■令和３年度の領域等別調査結果

中学校数学					
学習指導要領の領域等		数と式	図形	関数	資料の活用
令和三年度	香川（公立） 平均正答率（％）	64.0	49.8	54.9	54.3
	全国（公立） 平均正答率（％）	64.9	51.4	56.4	53.8
	香川と全国との差 （pt）	▲0.9	▲1.6	▲1.5	0.5

■問題別調査結果【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県 (公立)	全国 (公立)
全体		15	49	48.3
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	43.2	43.5
	B 図形	4	47.8	46.5
	C 関数	3	48.7	48.2
	D データの活用	3	59.0	58.6
評価の観点	知識・技能	9	55.0	54.4
	思考・判断・表現	6	39.2	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	53.4	54.0
	短答式	7	53.1	52.0
	記述式	5	39.7	39.6

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県 (公立)	全国 (公立)	香川県 (公立)	全国 (公立)
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1 (1) ア (ア)					○		○			32.6	31.8	0.7	0.7
2	果汁 40% の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	1 (2) ア (エ)					○			○		53.3	51.9	6.1	7.3
3	△ABC において、∠A の大きさが 50° のときの頂点 A における外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる		2 (1) ア (イ)				○			○		63.7	58.1	2.2	2.0
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる			2 (1) ア (ア)			○			○		37.7	34.7	8.2	8.0
5	ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m 以上 25m 未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる				1 (1) ア (ア)		○			○		44.5	42.5	8.6	9.4
6 (1)	連続する二つの 3 の倍数の和が 9 の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	2 (1) ウ (イ)					○			○		58.9	62.8	4.7	4.6
6 (2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ (イ)					○				○	25.4	25.7	24.7	24.9
6 (3)	連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ (イ)					○				○	45.9	45.2	20.9	20.2
7 (1)	A の手元のカードが 3 枚とも「グー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの 1 回目をを行うとき、1 回目に A が勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる				2 (2) ア (ア)		○			○		76.5	77.4	3.8	3.2
7 (2)	A の手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の 4 枚、B の手元のカードが「グー」、「チョキ」の 2 枚のとき、A と B の勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2 (2) イ (イ)		○				○	55.8	55.9	2.5	2.2
8 (1)	A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を讀み取れば C 駅と D 駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる				1 (1) ア (ウ)		○			○		70.1	71.9	2.7	2.3
8 (2)	A 駅から 60.0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				1 (1) イ (イ)		○				○	38.2	38.0	34.4	35.0
9 (1)	四角形 AECF が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる			2 (2) ア (イ)			○			○		57.6	58.5	1.7	1.1
9 (2)	平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に BE = DF となる点 E、F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる			2 (2) イ (ア)			○				○	36.8	36.3	7.3	7.2
9 (3)	平行四辺形 ABCD の辺 BC、DA を延長した直線上に BE = DF となる点 E、F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE の交点を H としたとき、四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる			2 (2) イ (イ)			○				○	33.2	33.2	34.7	31.5

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【中学校数学】（全 15 問中 2 問）

問題 番号	問題の概要	領域	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
3	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	図形	知技	短答	63.7	2.2	5.6
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める	関数	知技	短答	37.7	8.2	3.0

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【中学校数学】（全 15 問中 1 問）

問題 番号	問題の概要	領域	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
6(1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	数式	知技	短答	58.9	4.7	▲3.9

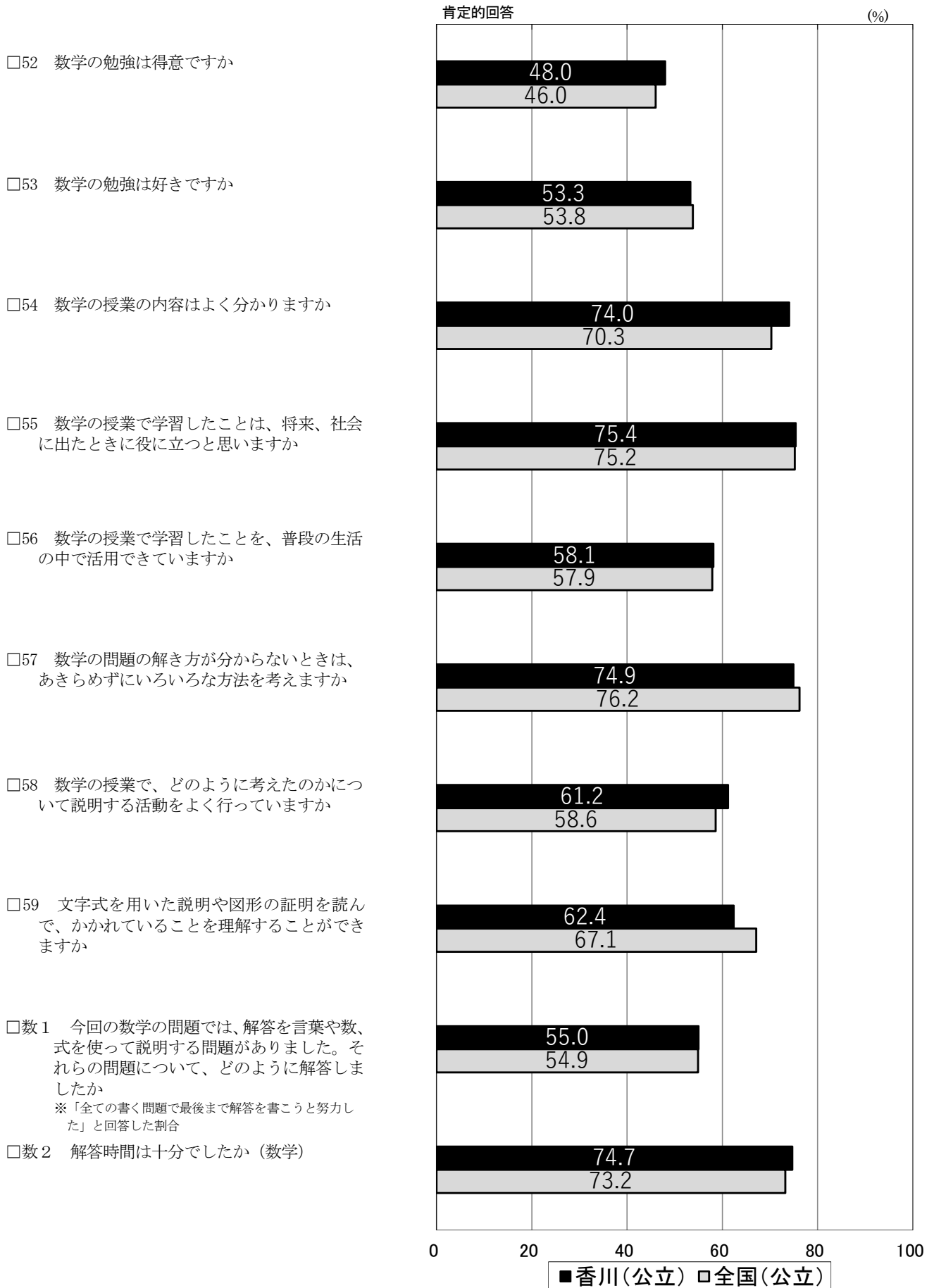
■正答率が低い問題（50%未満）

【中学校数学】（全 15 問中 8 問）

問題 番号	問題の概要	領域	評価 観点	問題形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	数式	知技	選択	32.6	0.7	0.8
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める	関数	知技	短答	37.7	8.2	3.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	デ活	知技	短答	44.5	8.6	2.0
6(2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	数式	思判表	記述	25.4	24.7	▲0.3
6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	数式	思判表	記述	45.9	20.9	0.7
8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	関数	思判表	記述	38.2	34.4	0.2
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に $BE=DF$ となる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	図形	思判表	短答	36.8	7.3	0.5
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に $BE=DF$ となる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	図形	思判表	記述	33.2	34.7	0.0

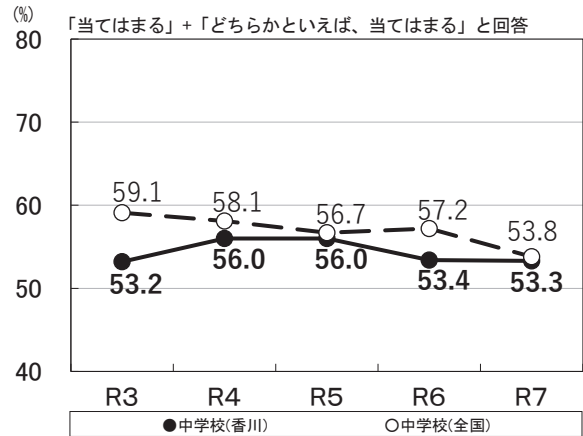
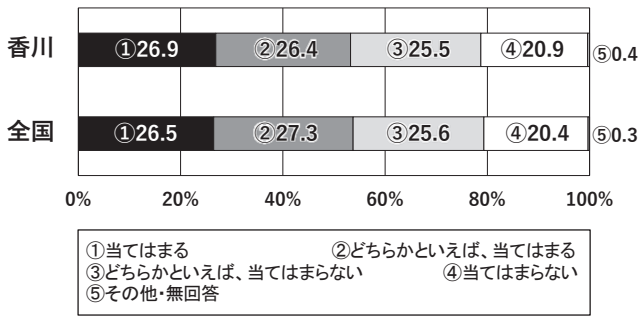
【領域】	【評価観点】	【問題形式】
数と式 図形 関数 データの活用	: 数式 : 図形 : 関数 : デ活	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む態度
	: 知技 : 思判表 : 主体	選択式: 選択 短答式: 短答 記述式: 記述

■中学校数学に関わる質問の全国との比較

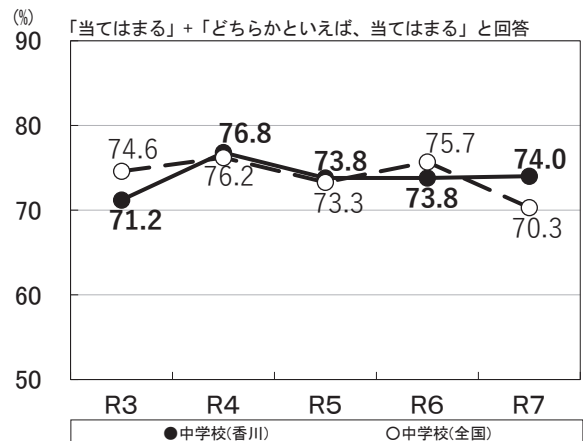
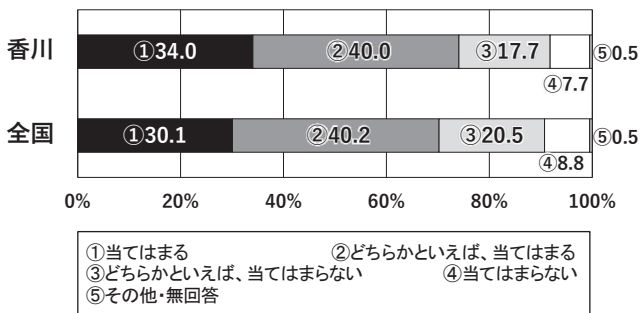


※肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。(回答選択肢一覧…P104)

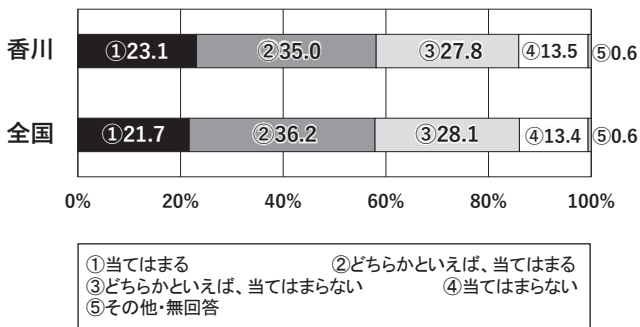
□53 数学の勉強は好きですか



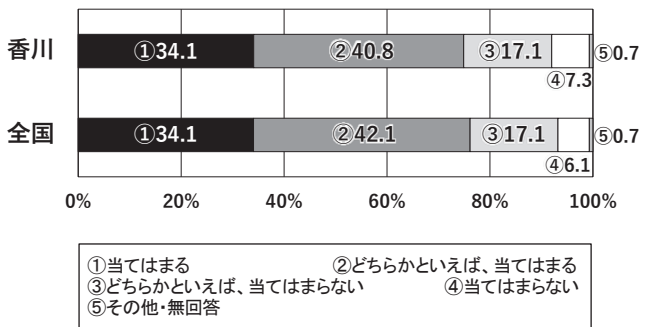
□54 数学の授業の内容はよく分かりますか



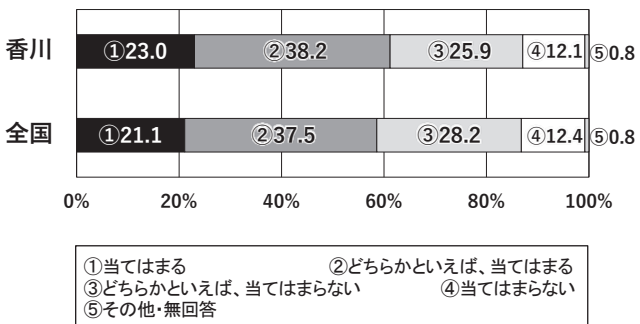
□56 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか



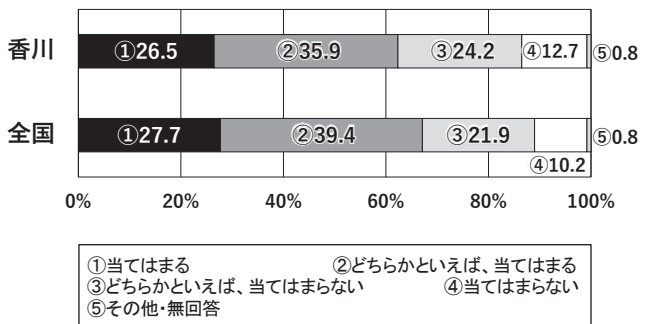
□57 数学の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考えますか



□58 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか



□59 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか



中学校数学

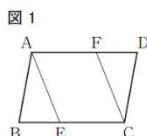
調査結果から授業改善へ

見通しをもって構想に基づいて証明することや条件が変わった場合について統合的・発展的に考察することができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

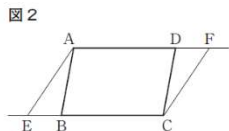
中学校 数学 9 (2) (3)

- ⑨ 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。
- このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。



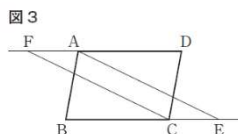
(途中省略)

- (2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとって、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでの中から1つ選び、正しく書き直さない。



- ア 平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
よって、 $AF \parallel EC$ ……①
- イ 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②
- ウ 仮定より、
 $DF = BE$ ……③
- エ ②、③より、
 $AD - DF = BC - BE$ ……④
- オ ④より、
 $AF = EC$ ……⑤
- ①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形AECFは平行四辺形である。

- (3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。



このとき、四角形FCEAは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
よって、 $FA \parallel CE$ ……①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②

仮定より、
 $DF = BE$ ……③

②、③より、
 $DF - AD = BE - BC$ ……④

④より、
 $FA = CE$ ……⑤

①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形FCEAは平行四辺形である。

問題番号	解答類型	香川 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
1	エを選択 ②、③より、 $AD + DF = BC + BE$ …④と記述しているもの。(AF=ECが導けるものを含む)	36.8	36.3	◎
2	上記以外の解答	12.1	12.5	
3	無解答	6.1	6.0	
4	オを選択 AF=ECが成り立つ根拠を記述し、 AF=EC…⑤と記述しているもの。	0.0	0.0	◎
5	上記以外の解答	4.0	4.2	
6	無解答	3.0	2.8	
7	アを選択し、記述しているもの。	6.5	6.2	
8	イを選択し、記述しているもの。	7.3	8.4	
9	ウを選択し、記述しているもの。	5.9	5.3	
10	ア、イ、ウのいずれかを選択し、無解答であるもの。	10.6	10.7	
99	上記以外の解答	0.4	0.5	
0	無解答	7.3	7.2	
正答率		36.8	36.3	

問題番号	解答類型	香川 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
(正答の条件) 次の(a)、(b)、(c)、とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。 (a) $AG \parallel HC$ (b) $GC \parallel AH$ (c) 四角形AGCHは平行四辺形である。				
1	(a)、(b)、(c)とそれぞれの根拠を記述しているもの。	17.3	16.7	◎
2	(a)、(b)、(c)について記述しているが、表現が十分でないもの。	7.9	7.5	○
3	上記1、2以外で、正しく証明しているもの。	3.4	3.5	◎
4	上記3について、表現が十分でないもの。	4.6	5.5	○
5	(a)、(b)、(c)について記述しているが、証明に誤りを含んでいるもの。	1.0	1.0	
6	(a)、(b)について記述しているもの。	2.9	3.3	
7	(c)のみを記述しているもの。	9.4	9.5	
8	上記6、7について、証明に誤りを含んでいるもの。	1.9	2.1	
99	上記以外の解答	16.9	19.5	
0	無解答	34.7	31.5	
正答率		33.2	33.2	

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとすると、四角形AGCHも平行四辺形になります。

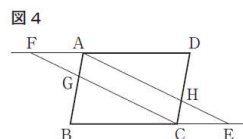


図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

- [9](2)は統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は36.8%であり、全国の正答率を0.5pt上回っているが、低い状況にあり、課題がある。誤答の中では、解答類型2、3の「エを選択しているが $AF=EC$ が導けていないもの（無解答を含む）」の反応率の合計が18.2%と高い。元の証明を振り返って、書き直すことが必要な部分は捉えているが、変えた条件を書き直すことができなかった生徒がいると考えられる。平成30年度【中学校】数学B[4](2)は同じ趣旨の問題で本県の正答率は43.0%であった。また、今回の解答類型2、3と同じ趣旨の解答類型2、3の反応率の合計は15.9%と同様の傾向が見られる。よって、引き続き、条件を的確にとらえ、それを表現する力を育成する指導の充実を図る必要があると考えられる。
- [9](3)はある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は33.2%であり、全国の正答率と同等であるが、低い状況にあり、課題がある。誤答の中では、解答類型7の平行四辺形 $AGCH$ が平行四辺形であることのみを記述しているものの反応率が9.4%と高い。問題文の中から結論を見つけることはできるが、根拠を記述することが苦手な生徒がいると考えられる。また、本県の無解答率は34.7%で、他の問題と比較しても高い数値である。

授業改善のポイント

【条件を変えた場合について、元の証明を振り返りながら見通しをもって証明できるようにする】

問題に示された条件を変えた図形の性質を考察する場合、元の問題の証明を振り返りながら、見通しをもって証明する場面を設けることが大切である。

[9](2)を使って授業を行う際には、「四角形 $AECF$ は平行四辺形になる」という結論を示すために必要な条件や性質を捉えて、元の証明を振り返って共通点、類似点、相違点を見つけることで、見通しをもって証明する場面を設定することが考えられる。その際、一人一台端末でデジタル教材や作図ツールを活用して、元からの条件である $BE=DF$ は変えないとすると、点をとる位置を変えても四角形 $AECF$ は平行四辺形になることを確認する活動を設定することも有効である。このように、ICT機器等を用いて図形を動的に動かすことで、変化するものと変化しないものを視覚的に見いだしていく活動が大切である。

【条件を変える前と後の2つの証明を比べ、条件の違いに着目し、2つの図形の違いを考察できるようにする】

証明を読み、結論を導くために必要な条件や性質を生徒が捉えることができる場面を設定し、問題の条件を変えて、発展的に考えることができるように指導することが大切である。

[9](2)を使って授業を行う際には、「平行四辺形 $ABCD$ の辺 BC 、 DA 上に $BE=DF$ となる点 E 、 F をそれぞれとる」から「平行四辺形 $ABCD$ の辺 CB 、 AD を延長した直線上に $BE=DF$ となる点 E 、 F をそれぞれとる」という条件に変えることで、四角形 $AECF$ がどのような四角形となるかを明らかにする場面を設定する。点 E 、 F を辺上にとるか延長線上にとるかという条件の違いに着目することで、その違いが図や証明の中でどのように表れているか確認する活動を取り入れることが考えられる。その際、条件を変えても、図の中で変わらない部分を確認し、その上で、 $AF=EC$ であることの根拠を示すために、「 $AD-DF=BC-BE$ 」から「 $AD+DF=BC+BE$ 」に変えなくてはならないことや他の部分は変えなくてもよいことを確認できるようにすることが大切である。

このような過程を生徒が経験することで、書いた証明を振り返り、ある条件に着目して「～でないならどうなるのか」と意図的に条件を変える発展的に考察する機会になると考えられる。

【付加された条件から新たな事柄を見つけ、構想に基づいて証明できるようにする】

新たに条件を加えた際に、前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にする活動を取り入れ、付加した条件から見つけた事柄を数学的に表現するためには、成り立つ事柄とその根拠を理解することが大切である。

[9](3)を使って授業を行う際には、平行四辺形 $FCEA$ から見つけられる新たな性質である $GC \parallel AH$ が成り立つことを確認し、平行四辺形 $AGCH$ を証明するために必要なもう1つの根拠である $AG \parallel HC$ とともに説明し伝え合う活動を取り入れることが考えられる。その際、前提である「平行四辺形 $ABCD$ 」「 $BE=DF$ 」「平行四辺形 $FCEA$ 」やその性質を明確にし、結論である「四角形 $AGCH$ は平行四辺形」をどのような筋道を立てて考えるかについて話し合わせたい。

また、(1)、(2)の問題と関連付けて条件や図形の共通点や相違点に触れることで、問題状況の構造を統合的に考察することが大切である。

6 中学校理科

概 要

理科について、平均 IRT スコアは、おおむね全国と同等である。

■令和 7 年度平均正答数の集計値

【1】

中学校理科	生徒数	平均正答数 / 設問数	標準偏差
香川（公立）	6,909	2.9 / 6	1.4
全国（公立）	864,634	2.9 / 6	1.4

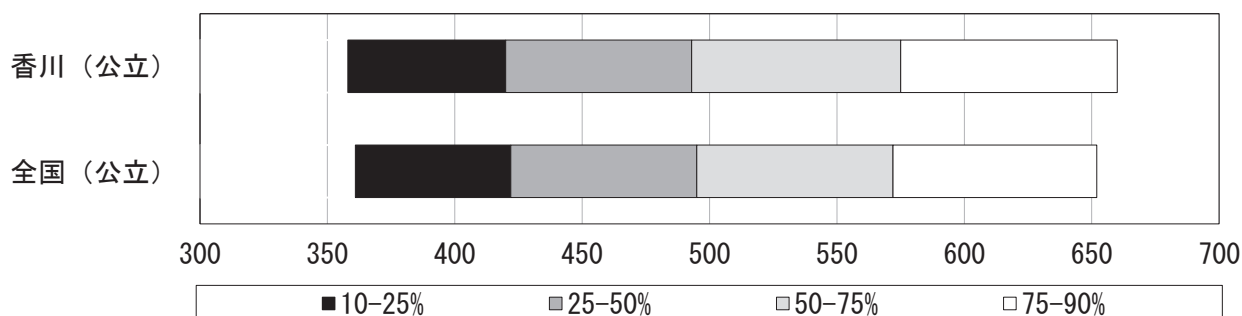
【2】～【9】

中学校理科	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
香川（公立）	2.0 / 4	1.8 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4
全国（公立）	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4

■令和 7 年度 IRT スコアの集計値

中学校理科	平均 IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
香川（公立）	504	128.5	358	420	493	575	660
全国（公立）	503	124.0	361	422	495	572	652

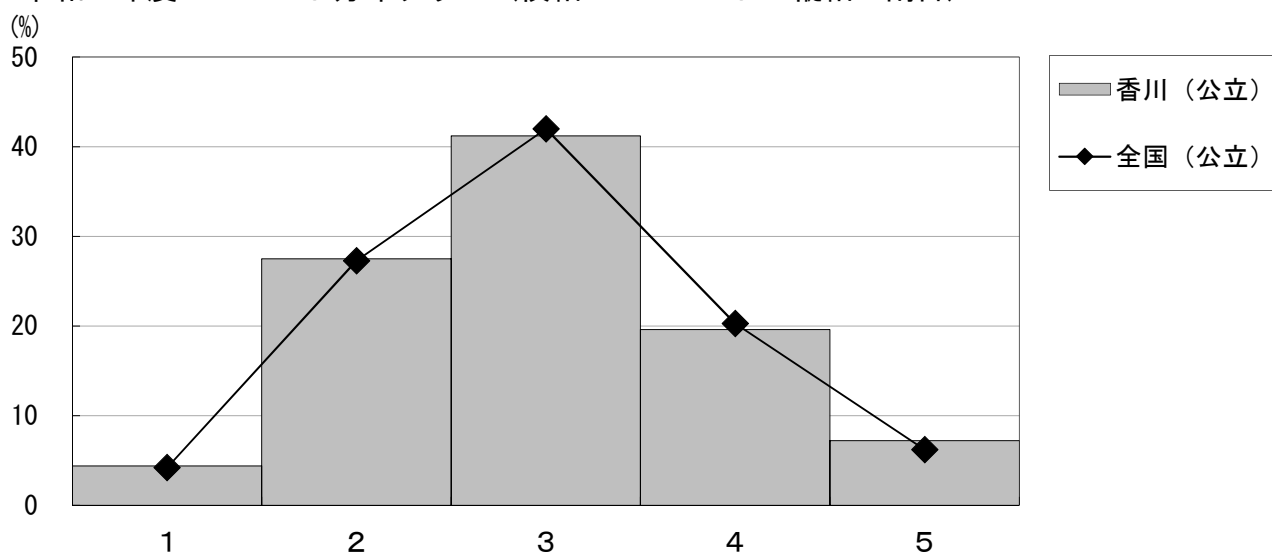
■令和 7 年度 IRT スコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%、25%、50%、75%、90%）



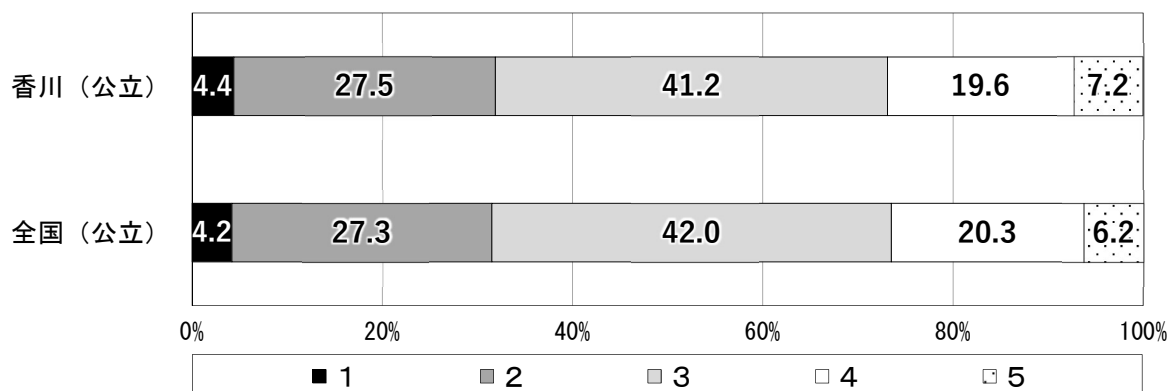
■令和7年度 IRT バンド集計値

IRT バンド	生徒数	割合 (%)	
	香川 (公立)	香川 (公立)	全国 (公立)
5	500	7.2	6.2
4	1,351	19.6	20.3
3	2,849	41.2	42.0
2	1,903	27.5	27.3
1	306	4.4	4.2

■令和7年度 IRT バンド分布グラフ (横軸 : IRT バンド 縦軸 : 割合)



■令和7年度 IRT バンド分布比較



■問題別調査結果【理科】

問題別集計結果（公開問題）

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		問 題 の 難 易 度	対象生徒数	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）		香川県（公立）	全国（公立）
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ㊦				○			○			51.7	51.9	0.2	0.2	5	6,909	864,634
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	(2) (7) ㊦					○				○	50.2	46.2	6.3	8.0	5	6,909	864,634
1 (3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出するかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (7) ㊦		○		○			36.0	36.2	0.7	0.6	5	6,909	864,634
1 (4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(3) (7) ㊦			○			○			33.9	29.7	0.3	0.2	5	6,909	864,634
1 (5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ㊦				○				○		42.8	44.9	7.3	8.5	4	6,909	864,634
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	(2) (7) ㊦					○				○	80.1	79.4	8.3	9.9	3	6,909	864,634
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) ㊦					○				○	12.5	14.0	2.0	1.9	5	1,785	203,127
2 (2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめるを行う学習活動の場で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ㊦				○			○			93.4	94.6	0.3	0.1	2	1,785	203,127
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) ㊦					○		○			38.4	34.9	0.3	0.2	5	1,789	220,884
3 (2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ㊦				○			○			84.1	85.2	0.2	0.1	2	1,789	220,884
4 (1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大きさを判断し、小さい順に並べる	ガス管輸送の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	(2) (7) ㊦					○		○			49.4	50.4	0.1	0.1	4	1,673	220,314
4 (2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) ㊦				○			○			91.4	92.8	0.1	0.1	2	1,673	220,314
5 (1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作に関する技能が身に付いているかどうかを見る	(2) (7) ㊦				○			○			92.4	93.0	0.1	0.1	1	1,662	220,309
5 (2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	(4) (4) ㊦					○				○	35.4	35.6	3.9	4.6	4	1,662	220,309
6 (1)	牧野富太郎の「ノジグク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ㊦				○			○			61.0	65.9	0.3	0.2	4	1,789	220,884
6 (2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	(3) (4) ㊦					○		○			44.9	41.9	0.3	0.1	4	1,789	220,884
7 (1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	(3) (7) ㊦					○		○			35.0	34.8	0.3	0.2	5	1,673	220,314
7 (2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されること、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ㊦	(3) (7) ㊦			○			○			53.7	51.6	0.0	0.2	5	1,673	220,314
8 (1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分ればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる			(2) (4) ㊦			○				○	38.7	42.2	3.1	3.2	4	1,662	220,309
8 (2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる		(2) (4) ㊦			○			○			16.8	18.1	1.0	1.1	5	1,662	220,309
9 (1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見過しについて分析して解釈できるかどうかをみる		(4) (7) ㊦			○			○			33.9	31.8	0.4	0.3	5	1,785	203,127
9 (2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ㊦				○			○			58.8	58.1	0.7	0.3	4	1,785	203,127

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【中学校理科】（公開問題 22 問中 4 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	粒子	思判表	記述	50.2	6.3	4.0
1(4)	生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	生命	知技	選択	33.9	0.3	4.2
3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	エネ	思判表	選択	38.4	0.3	3.5
6(2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	生命	思判表	選択	44.9	0.3	3.0

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【中学校理科】（公開問題 22 問中 2 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
6(1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	生命	知技	選択	61.0	0.3	▲4.9
8(1)	大地の変化に関する言い伝えを 1 つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	地球	思判表	記述	38.7	3.1	▲3.5

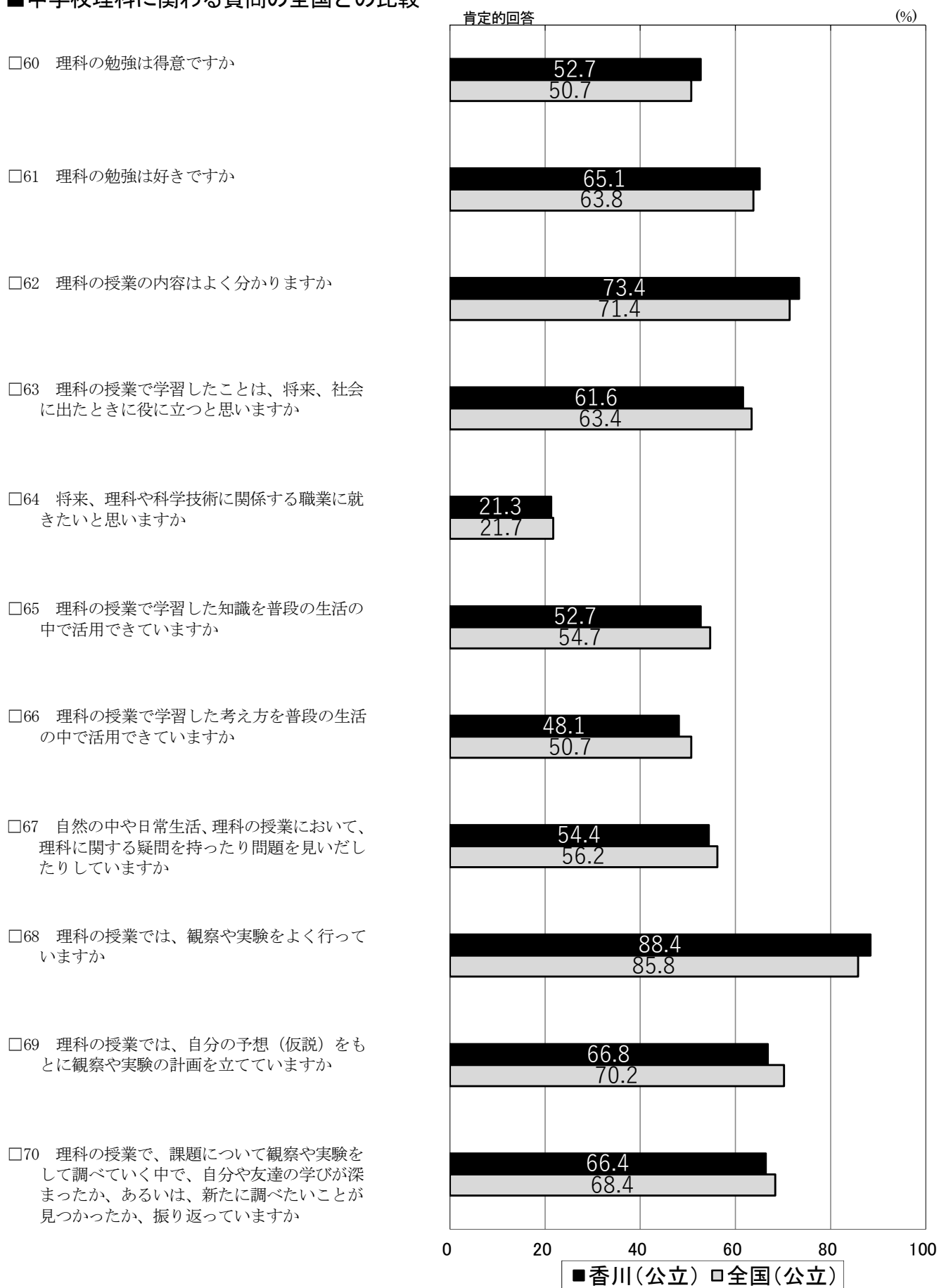
■正答率が低い問題（50%未満）

【中学校理科】（公開問題 22 問中 12 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(3)	地層 1 から地層 4 までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	地球	思判表	選択	36.0	0.7	▲0.2
1(4)	生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	生命	知技	選択	33.9	0.3	4.2
1(5)	塩素の元素記号を記述する	粒子	知技	短答	42.8	7.3	▲2.1
2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	エネ	思判表	記述	12.5	2.0	▲1.5
3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	エネ	思判表	選択	38.4	0.3	3.5
4(1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の実験の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	粒子	思判表	選択	49.4	0.1	▲1.0
5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	粒子	思判表	記述	35.4	3.9	▲0.2
6(2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	生命	思判表	選択	44.9	0.3	3.0
7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	生命	思判表	選択	35.0	0.3	0.2
8(1)	大地の変化に関する言い伝えを 1 つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	地球	思判表	記述	38.7	3.1	▲3.5
8(2)	A さんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようなになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	地球	思判表	記述	16.8	1.0	▲1.3
9(1)	【予想】から学習した内容が反映された A さんの【振り返り】を読み、A さんの【予想】を判断し、選択する	地球	思判表	選択	33.9	0.4	2.1

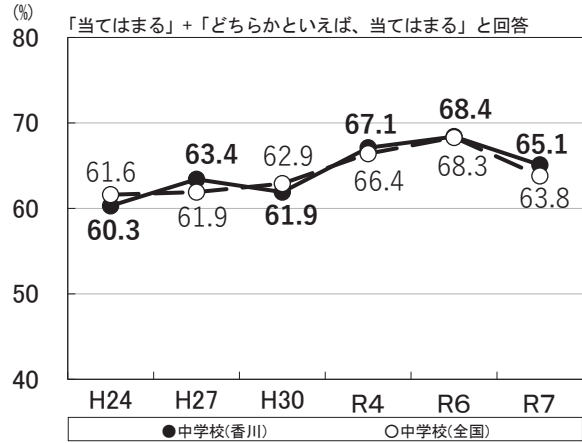
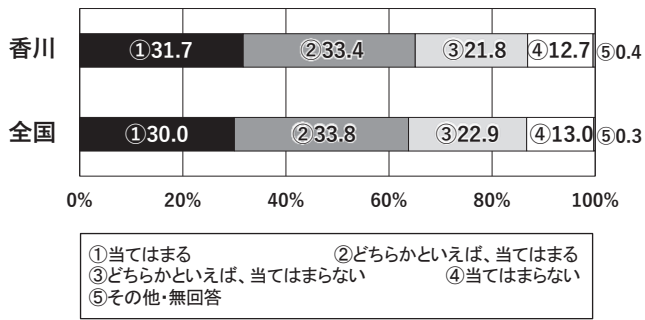
【領域】	【評価観点】	【問題形式】
エネルギー 粒子 生命 地球	：エネ ：粒子 ：生命 ：地球	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む態度
	：知技 ：思判表 ：主体	選択式：選択 短答式：短答 記述式：記述

■中学校理科に関わる質問の全国との比較

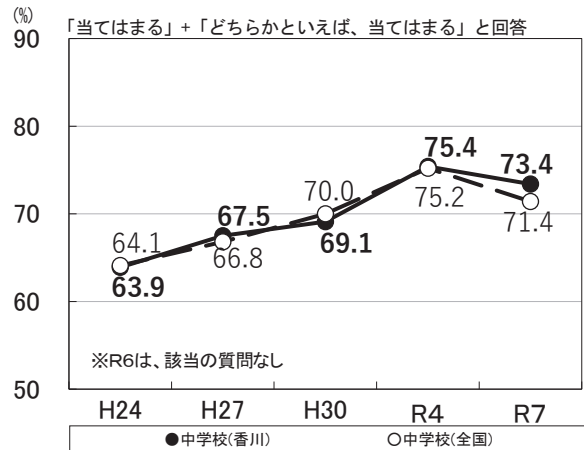
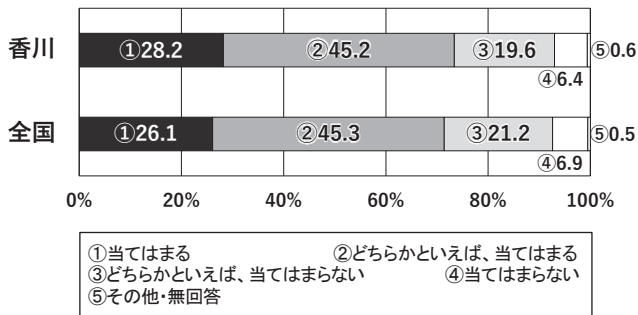


※肯定的な回答とは、回答選択肢 1 + 2 を指す。(回答選択肢一覧…P104)

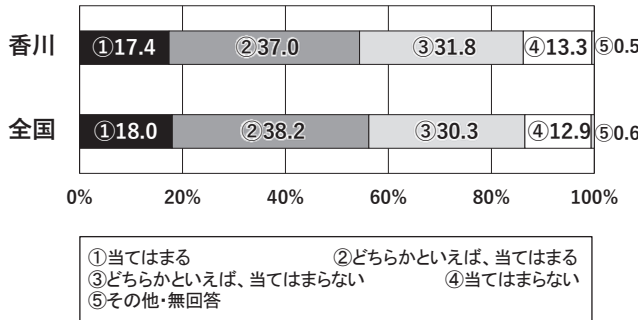
□61 理科の勉強は好きですか



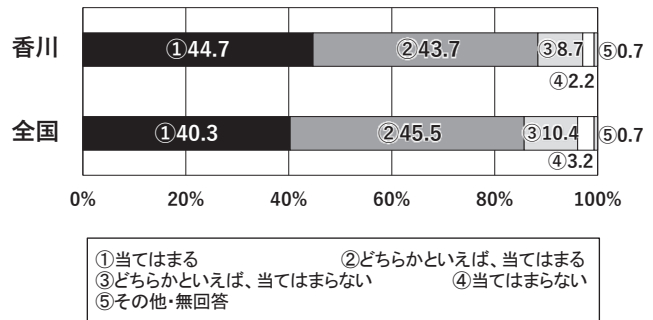
□62 理科の授業の内容はよく分かりますか



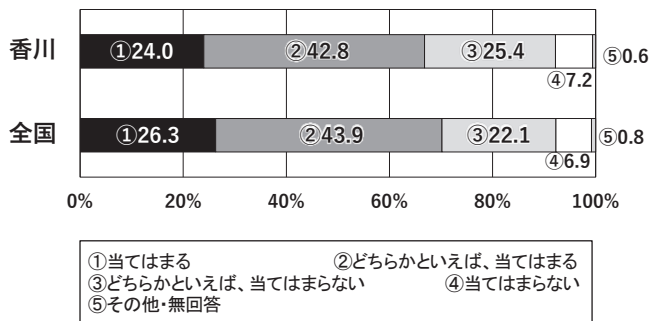
□67 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか



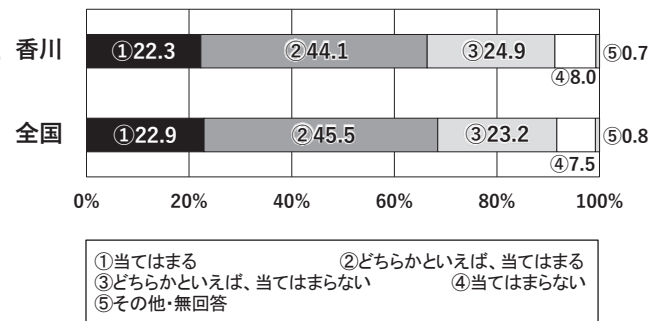
□68 理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか



□69 理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てていますか



□70 理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか



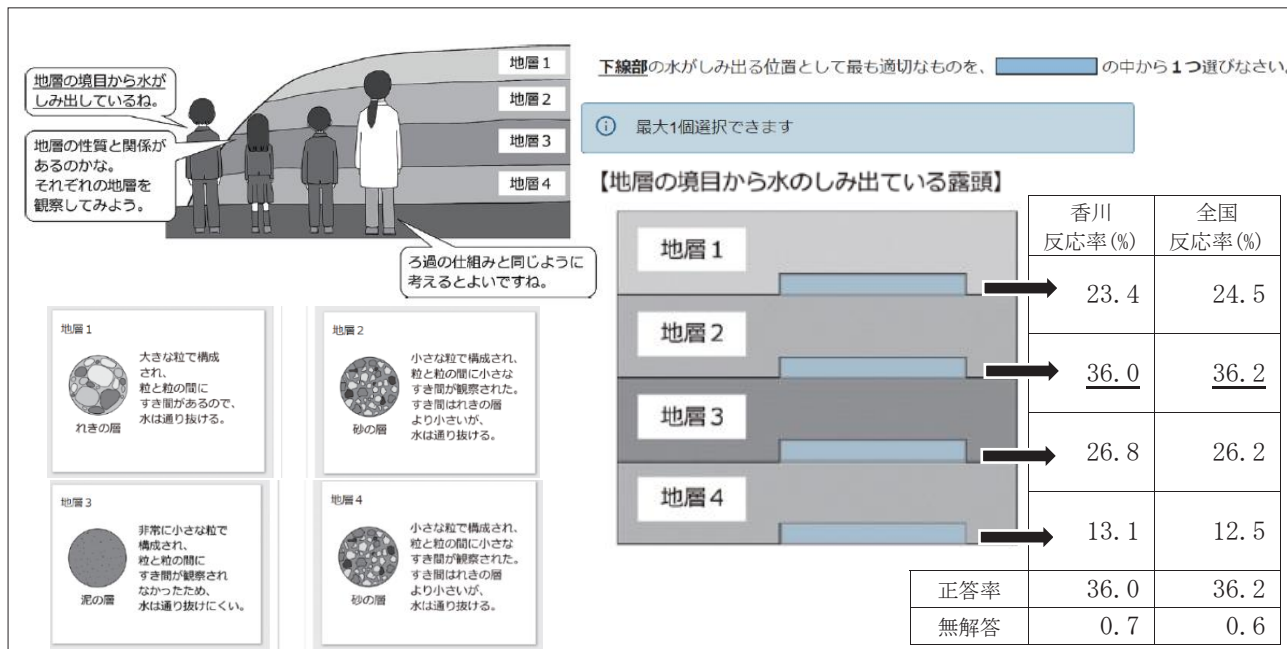
中学校理科

調査結果から授業改善へ

身に付けた知識を身近な現象で活用できる程度に概念を理解できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 理科 1 (3)



分析・考察

- 本問題は露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識・技能を関係付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる問題である。本県の正答率は36.0%であり、全国の正答率を0.2pt下回っている。
- 各地層の特徴を示した添付資料には、小学校で学習した粒の大きさと染み込み方について詳しく記されている。しかし、各地層の特徴と水が染み出る位置を関連付けて考えられていないと推察される。

授業改善のポイント

【身の回りの事象と関連させる「学習場面」を設定することで、主体的に探究することができるようにする】

理科では、身に付けた知識及び技能を活用して、身の回りの事象を主体的に探究することが大切である。指導に当たっては、地域の湧き水が出ているところや井戸、あるいは有名な天然水の産地などに関連付けて探究する場面を設定することが考えられる。学んだことを日常生活や自然の特定の場面につなげて考えることで学ぶ意義や自然への畏敬の念を感じることができる。

【これまで学んできた基礎的な概念を様々な場面に適用できるようにする】

小学校4年で学習する「粒の大きさと水の染み込み方の関係」を様々な場面に当てはめていく場をもつことも有効である。例えば、エンジン畑には水はけがよい方が適しているので粒の大きな砂を利用している。逆に、稲作には水をためる必要があるので粒の小さい泥を利用している。また、湿地や湿原に関連付けたり、そこで育つ水芭蕉や蓮などの植物に関係付けたりしてもおもしろい。

【地層や湧き水をイメージできるように ICT を有効に活用する】

地層の露頭は実物を目にすることが少ない上、大きさや広がり、生成年月など空間的・時間的なスケールが極めて大きく、理科室でのモデル実験を経験しても関係付けて考えることが難しい。ICTを活用することで現物の理解を補いたい。

中学校理科

調査結果から授業改善へ

考察の妥当性を高めるため追加の実験を構想できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 理科 2(1)

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。

(1)、(2)の各問いに答えなさい。

ストローを上下に動かしたら音の高さが変わりました。

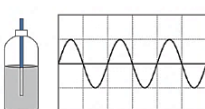


ストローの中に息を吹き込むと音が出るのは、ストローの中の空気が振動したからだよね。

音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。

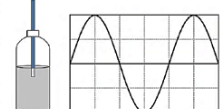
【実験】「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。

実験1



オシロスコープの波形

実験2



オシロスコープの波形

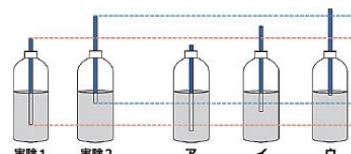


右のように【考察】しました。

【考察】「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。



【考察】をより確かなものにするためには、あと1つ実験を行うとよいですね。次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかな。



ストローの高さが分かるように補助線を引いている

(1)

正解について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか、1つ選びなさい。

上のア、イ、ウのどの実験を選んでいいかわかりません。

また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいのか、振動数という言葉を使って書きなさい。

ア、イ、ウのいずれかを選択し、振動数という言葉を使用している	香川 反応率(%)	全国 反応率(%)	解答類型
アを選択し、振動数が 実験1 より多いことを記述している	4.3	3.4	1、2
イを選択し、振動数が 実験1 と 実験2 の間であることを記述している	4.2	5.5	6
ウを選択し、振動数が 実験2 より少ないことを記述している	4.1	5.1	11、12
正答率	12.6	14.0	
無解答	2.0	1.9	

分析・考察

- 本問題は、考察をより確かなものにするために、音の高低に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる問題である。本県の正答率は12.6%であり、全国の正答率を1.4pt下回っている。
- 考えるべき要因（ストローの長さ）と振動数の関係性から見てきた規則性をより確かなものにするための追加実験を構想する場面である。しかし、正しく2つの要因を捉えられていなかったり、また、関係のない要因である振幅について指摘したりといった誤答もあった。このことから、課題を解決するための適切な実験を計画することに課題があると考えられる。

授業改善のポイント

【探究の過程を振り返り、調整する】

理科では、考察の妥当性を検討し、探究の過程を振り返り、探究の過程を調整して実験を計画することが大切である。また、Web ページ等の情報を適切に活用することも大切である。

授業では、ものづくりの活動を通して自然の事物・現象に疑問をもたせたり、考察の妥当性を高めるための実験や情報収集を行ったりする学習場面を設けることが考えられる。

【主体的なものづくりの活動の中でも量的・関係的な見方を大切にする】

本設問場面では、自由試行の中で、ストローを上下に動かしたら音の高さが変わること気付いた生徒は、その理由としてストローの長さや振動数に着目した。その際、考えるべき要因を明確・共有化して、探究を始めることが大切である。初めに行った2つの実験データを比較して見てきた規則性を明らかにした上で、「2つの実験だけで結論付けていいのだろうか」「もし、この規則性が正しいのならば〇〇では△△だ」と考え、様々な場面を構想できるようにする。

【見いだした規則性を生かしている身の回りの楽器を探す】

見つけた規則性を生かしている身の回りのもの、例えば、鉄琴や木琴の共鳴管、トロンボーン、ピアノの弦、琴、等の楽器はストロー笛で見いだした規則性をうまく活用している。科学の有用性と人の知恵も合わせて感じさせたい。

